

身近な地域のまちづくりについての
アンケート調査

報告書

平成31年3月

八尾市

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査概要	1
(3) 調査項目	1
(4) 分析結果の概要	2
2. 担い手の特徴（回答者の属性より）	3
3. まち協の分析方法	10
4. 分析結果	11
(1) 回答者（担い手）の特徴	11
(2) 担い手の活動状況	15
(3) まち協ができたことによる「地域活動の変化」	21
(4) まち協の住民への周知や活動への参加状況	36
(5) まち協の活動全般について	42
身近な地域のまちづくりについてのアンケート調査 調査票	53

1. 調査概要

(1) 調査の目的

- ・「校区まちづくり協議会」（以下、「まち協」という）は、住民が「わがまち意識」を共有し、地域の未来を考え、みんなの力で地域の特色を活かして、身近な地域の課題を解決するための組織として、地域に関わる各種団体が参画してできた組織である。
- ・まち協の組織運営や活動のあり方、まち協と本市との協働のあり方、まち協に対する支援のあり方等を検討するため、まち協の運営に携わっておられる担い手を対象とするアンケート調査を実施した。

(2) 調査概要

調査対象：まち協の運営に携わっている担い手

調査時期：2018年8月～9月

調査方法：まち協を通じた配布・回収（各校区に約30通配布）

回収数：457通

(3) 調査項目

回答者の活動状況	担い手として初めて参加してからの期間（問1） 地域活動に参加したきっかけ（問2） 地域活動に参加してよかったこと（問3） 地域活動に参加した後、増えたと感じる自身の行動（問4）
まち協ができたことによる「地域活動の変化」	地域のより良い暮らしの実現に向けてのまち協活動の役立ち（問5） 住民主体の地域活動の活発化に対するまち協の影響（問6） まち協の活動が活発になった要因（問7） まち協の設立後、地域活動の担い手として増えた属性（問8） 担い手を増やすためにまち協の運営で工夫していること（問9）※ 担い手一人あたりの負担の変化（問10） 年間参加日数（問11） 一人あたりの負担を減らすためにまち協の運営で工夫していること（問12）※ まち協運営の課題（問13） まち協運営の課題を解決するために必要なこと（問14）※
まち協の住民への周知や活動への参加状況	地域住民の参加状況についての課題（問15） まち協の活動情報の周知状況（問16） まち協の情報の周知のために工夫していること（問17）※ 周知のために活用すべき広報手段（問18）
活動全般	今後力を入れて取り組みたい活動（問19） 「地域の力」の結集状況（問20） 地域の力を結集した活動事例（問21）※ 今後連携・協力したい団体（問22） 連携・協力のアイデア（問23）※ まち協の活動を活発にするために必要なこと（問24）
回答者の属性	性別 年齢 住宅形態 地域での居住年数 就業状況 インターネット検索の利用状況 SNSの利用状況 居住している小学校区

（注）上記表中の※印は「自由回答」の設問

(4) 分析結果の概要

①「役立ち度」の認識が「とても役立っている」と回答している回答者の回答の特徴

回答者（担い手）の特徴	・女性の割合がやや高い。 ・30 歳～50 歳代の割合が高い。 ・地域での居住年数が 10 年未満の合計割合がやや高い。
担い手の活動状況	・地域活動に参加したきっかけは「自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから」の割合がやや高い。 ・地域活動に参加してよかったと思うことは「地域の人に喜んでもらえることがあった」の割合がやや高い。 ・地域活動に参加した後、増えたと感じる活動は「担い手として関わっていない行事等への参加」の割合がやや高い。
まち協ができたことによる「地域活動の変化」	・地域のより良い暮らしの実現に向けてまち協活動の役立ちは「とても役立っている」「まあまあ役立っている」の合計割合が高い。 ・住民主体の地域活動の活発化に対するまち協の影響は「まち協の設立後、さらに活発になった」の割合が高い。 ・まち協の活動が活発になった要因は「アイデアのある人に活動の企画を任せた」の割合がやや高い。 ・担い手の参加状況の変化では、「20～40 代の住民」「50～60 代の住民」「女性」の参加が「増えた」と思う割合が高い。 ・担い手の一人あたりの負担が「増えた」と思う割合が低い。 ・担い手としての年間参加日数は「11～20 日」の割合が高い。
まち協の周知や活動への参加状況	・地域の住民へまち協の活動情報が届く程度は「よく届いている」「まあまあ届いている」の合計割合が高い。
活動全般	・「地域の力」の結集状況は、「結集できている」「結集できるようになりつつある」の合計割合が高い。

②その他の分析結果（主なもの）

年代による違い	・30～40 歳代では、インターネットや SNS を利用している。 ・担い手一人あたりの負担の変化は、30～60 歳代では「増えた」が他の年代よりやや高い。 ・もっと活用したらよいと思われる周知手段は、30～40 歳代では「インターネット」や「SNS」が他の年代より高い。 ・今よりもっと力を入れて取り組むことが必要な活動は、30～40 歳代は子ども関連の活動を、50 歳代以上は高齢者や障がい者関連の活動が他の年代より高い。 ・連携・協力が広がればよいと思う団体は、30～40 歳代は「地元の企業・商店」を、50～60 歳代は「大学・学生」が他の年代より高い。 ・活動を活発にするために必要なことは、30 歳代は「活動への参加のよびかける（誘う）」、40 歳代は「活動の分担を工夫する（上手く分かち合う）」、50 歳代では「地域活動のリーダーを育てる」が他の年代より高い。
住宅形態による違い	・もっと活用したらよいと思われる周知手段は、マンション居住者では「マンション掲示板」の割合が戸建住宅居住者より高い。
その他	・活動期間が「1 年未満」の担い手の参加したきっかけは「役員の順番が回ってきたため」が約 7 割である。 ・活動期間が「10 年から 20 年未満」の担い手でも参加したきっかけは「役員の順番が回ってきたため」が約 2 割となっており、「活動を続けてみよう」と思う経験や理由を作ることが重要である。

2. 担い手の特徴（回答者の属性より）

ここでは、回答者の属性から、校区まち協の運営に携わっている担い手の特徴を把握する。

①性別

回答者の性別は、男性が 56.2%、女性が 38.3%と、男性が多くなっている。

年代別にみると、「30 歳代」と「40 歳代」では女性の割合が高くなっている。

図 1 性別

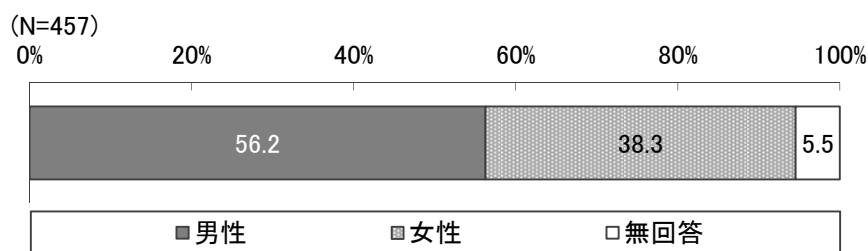
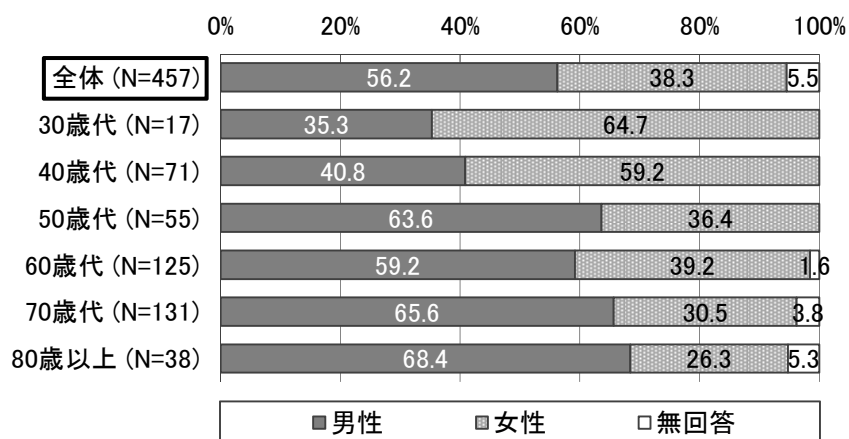


図 2 性別（年代別）



住居形態別にみると、マンション等（持家）では女性の割合が高くなっている。

居住年数別にみると、居住年数が「2年～5年未満」、「5年～10年未満」の担い手では女性が半数を超えている。「10年～20年未満」、「20年～30年未満」の担い手では男女ともほぼ同じ割合である。「30年以上」の担い手では男性が62.8%となっている。

図3 性別（住居形態別）

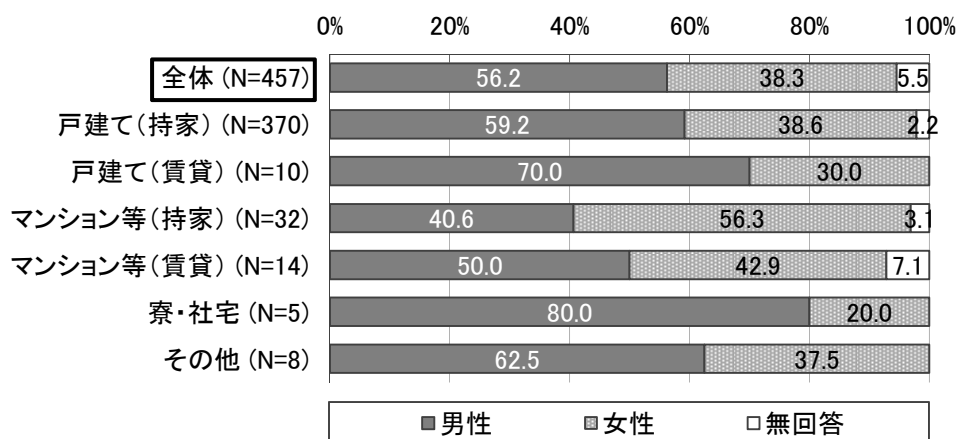
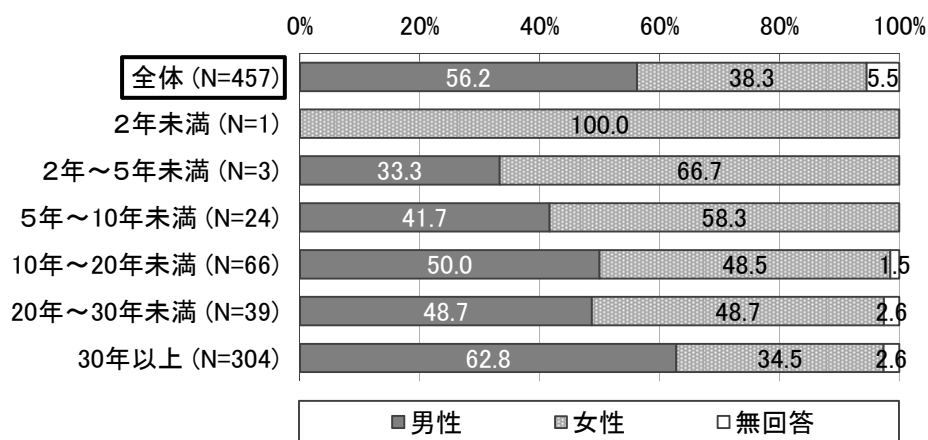


図4 性別（居住年数別）



②年齢

回答者の年齢は、「70 歳代」が 28.7%と最も多く、次いで「60 歳代」(27.4%)となっている。
60 歳代以上が 64.4%を占めている。20 歳代の回答者はいなかった。

性別にみると、男性の方が、年齢が高い回答者の割合が高くなっている。

図 5 年齢

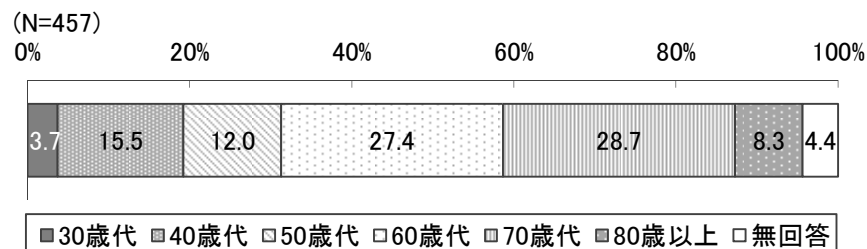
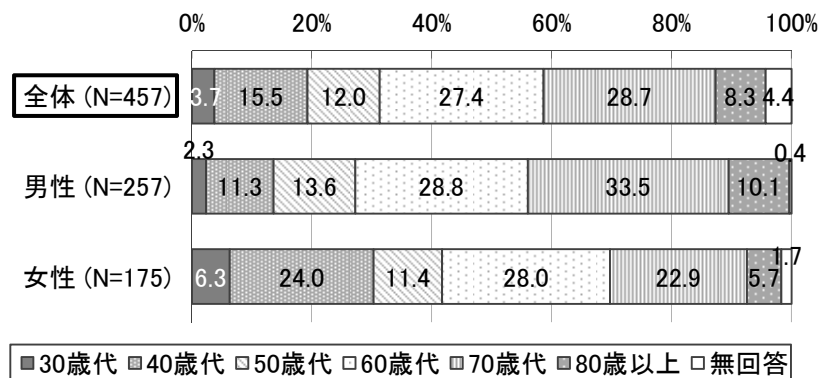


図 6 年齢 (性別)



③住宅形態

回答者の住宅形態は、戸建て（持家）が 81.0%と最も多い。

年代別にみると、「30 歳代」と「40 歳代」で、他の年代に比べて「マンション等（持家）」や「マンション等（賃貸）」の割合が高くなっている。

図 7 住宅形態

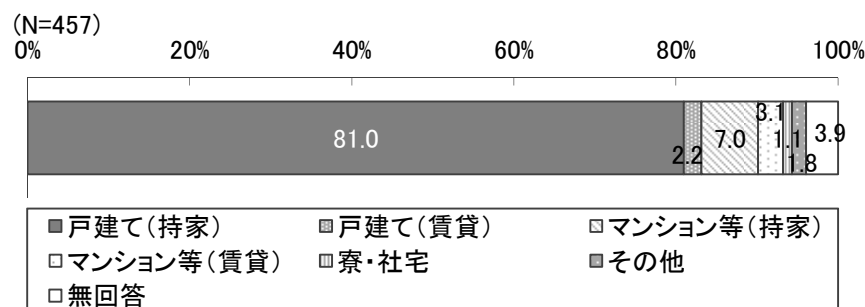
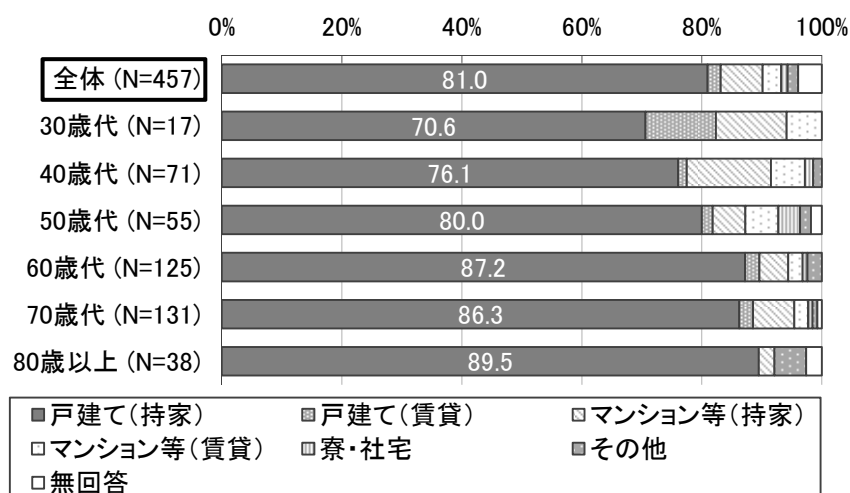


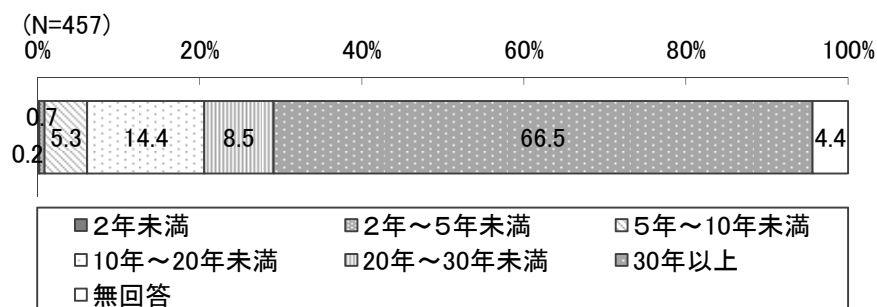
図 8 住宅形態（年代別）



④地域での居住年数

回答者の地域での居住年数は、「30 年以上」が 66.5%と最も多い。

図 9 地域での居住年数



⑤就業状況

回答者の就業状況は、「働いていない」が 48.1%と最も多く、次いで「働いている（フルタイム）」（28.7%）となっている。フルタイムとパート等を合わせると「働いている」が 46.2%となっている。

性別でみると、男性は半数以上が「働いている」が、女性は半数以上が「働いていない」となっている。年代別でみると、50歳代以下では「働いている」の割合が高くなっている。

図 10 就業状況

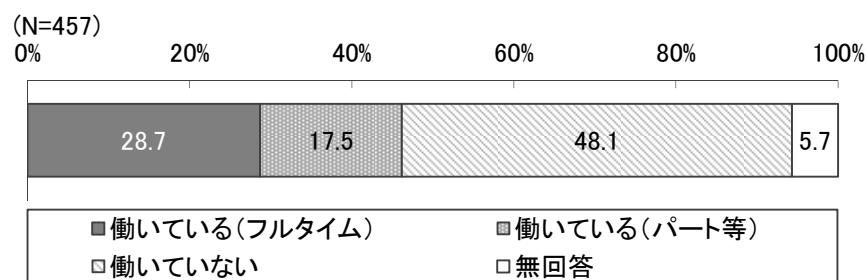
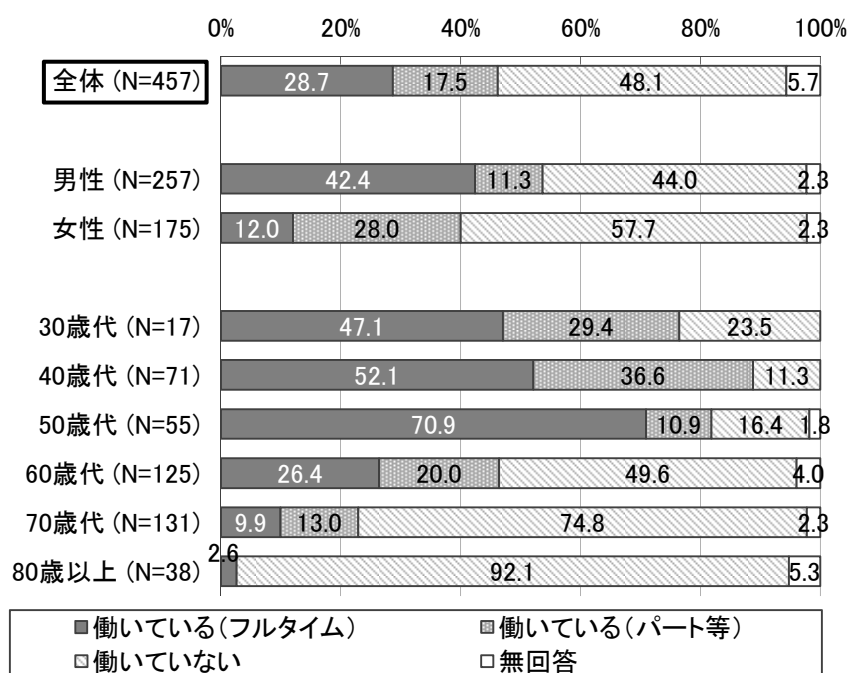


図 11 就業状況（性別・年代別）



⑥インターネット検索の利用状況

回答者のインターネット検索の利用状況は、「よく利用する」が48.4%と最も多い。

性別でみると、男女で利用状況に大きな違いはみられない。

年代別でみると、60歳代以下では「よく利用する」が半数を上回っている。そのため、概ね60歳代以下の世代に対しては、インターネットで地域活動の情報を提供していると、インターネット検索を通じて情報の共有（閲覧）につながる可能性がある。

図12 インターネット検索の利用状況

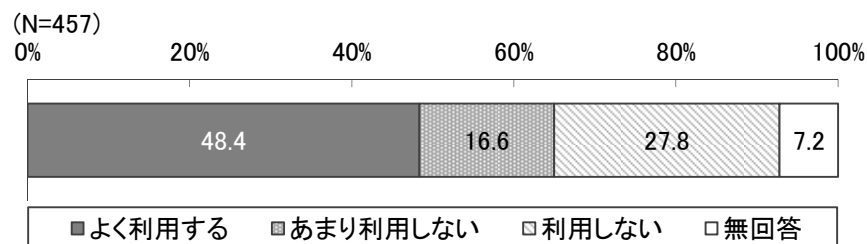
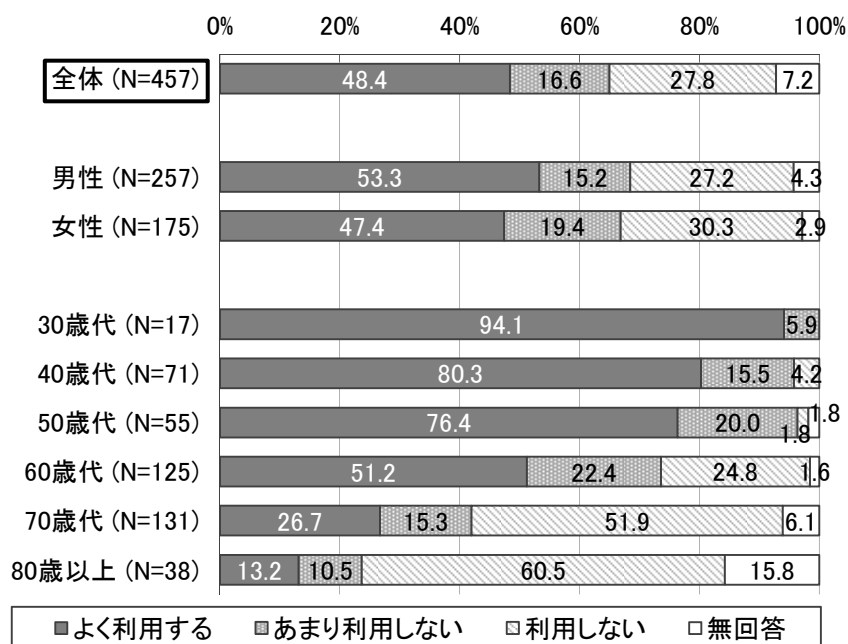


図13 インターネット検索の利用状況（性別・年代別）



⑦ SNSの利用状況

回答者のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用状況は、「利用しない」が42.9%と最も多く、次いで「よく利用する」（25.6%）となっている。インターネット検索に比べて、SNSの利用状況は低い。

年代別でみると、SNSを「よく利用する」が30歳代では70.6%、40歳代では52.1%と半数を上回っている。40歳代以下の住民に対しては、SNSで地域情報を発信することが、情報の共有（拡散）につながる可能性がある。

一方、SNSを「利用しない」が60歳代で45.6%、70歳代で63.4%となっている。そのため、担い手の約6割を占める60歳以上の担い手において、SNSのサービスの特性（情報の拡散等）について、十分な認識がされていない可能性がある。

図14 SNSの利用状況

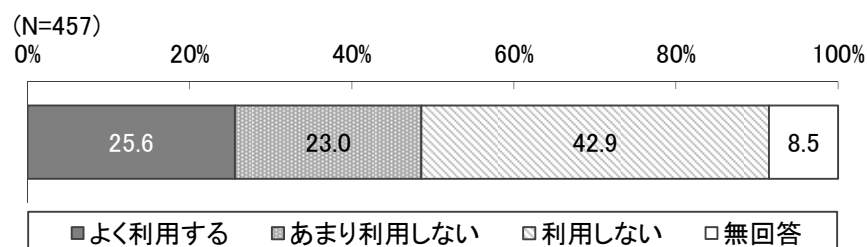
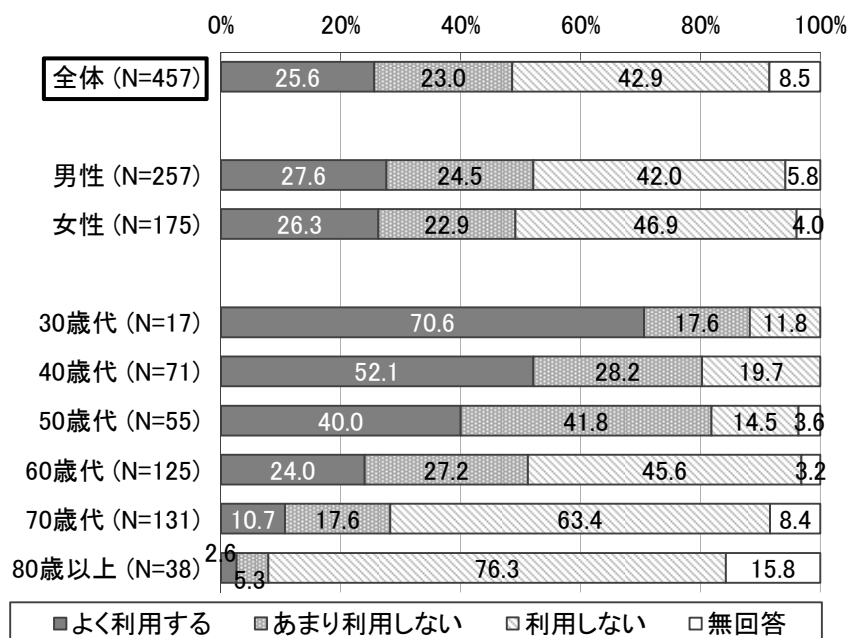


図15 SNSの利用状況（性別・年代別クロス）



3. まち協の分析方法

まち協は、組織運営や活動のあり方を工夫することで、より活発化していくと想定される。

本分析では、まち協の活発化の程度は、問5「地域のより良い暮らしの実現に向けてのまち協活動の役立ち度」（以下、「役立ち度」という）の回答に投影されると考えた。

そこで、今後のまち協の活発化に向けてのヒントを探るため、問5の回答における「役立ち度」についての担い手の認識に着目して分析することとした。

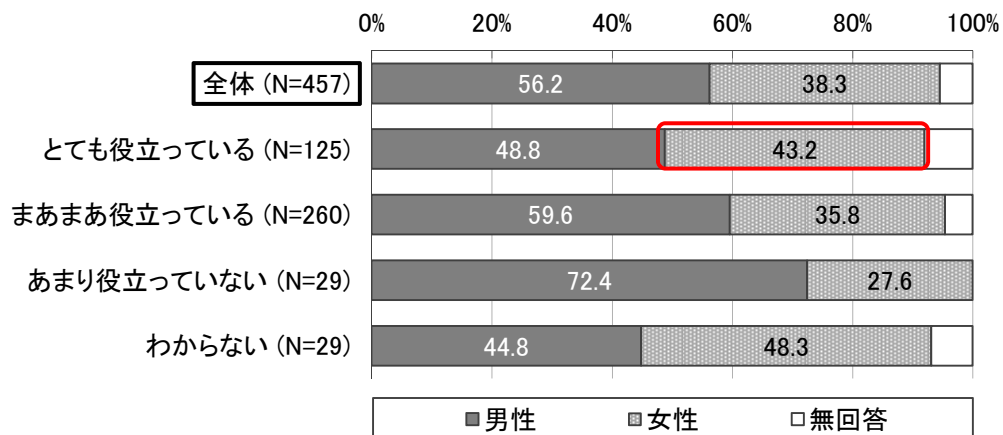
4. 分析結果

(1) 回答者（担い手）の特徴

①性別

役立ち度別にみると、「とても役立っている」では、他に比べて女性の割合が高くなっている。

図 18 性別（役立ち度別）

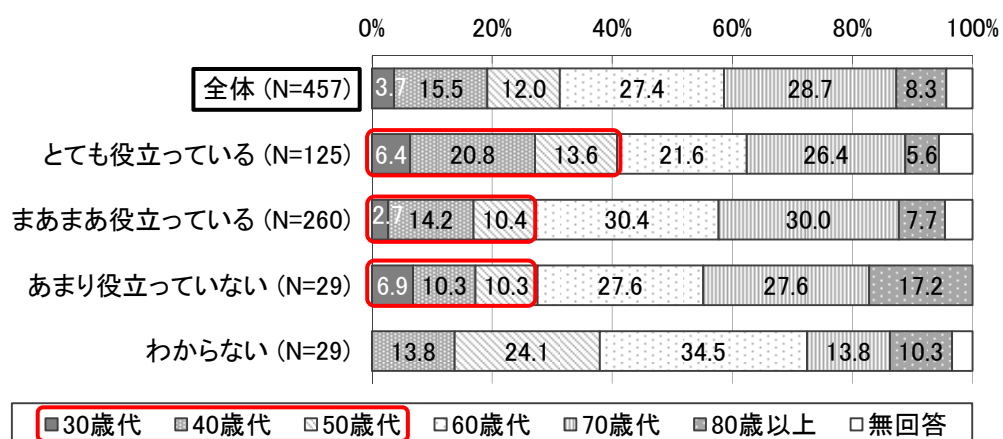


②年齢

役立ち度別にみると、いずれも 60 歳以上の担い手が半数以上を占めている。

「とても役立っている」では、「まあまあ役立っている」「あまり役立っていない」に比べて、30 歳代～50 歳代の割合が高くなっている。

図 19 年齢（役立ち度別）

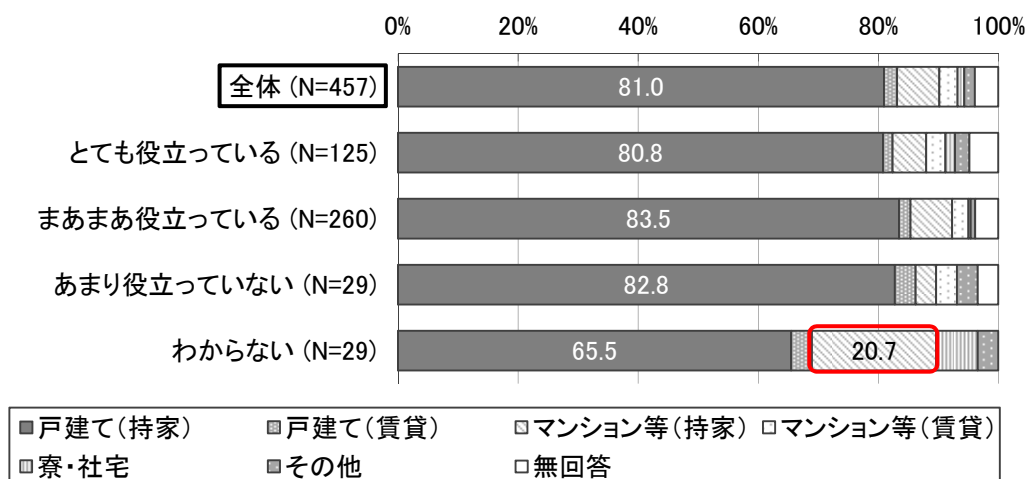


③住宅形態

役立ち度別にみると、いずれも「戸建て（持家）」が最も多い。

「わからない」では、他に比べて「マンション（持家）」の割合が高くなっている。

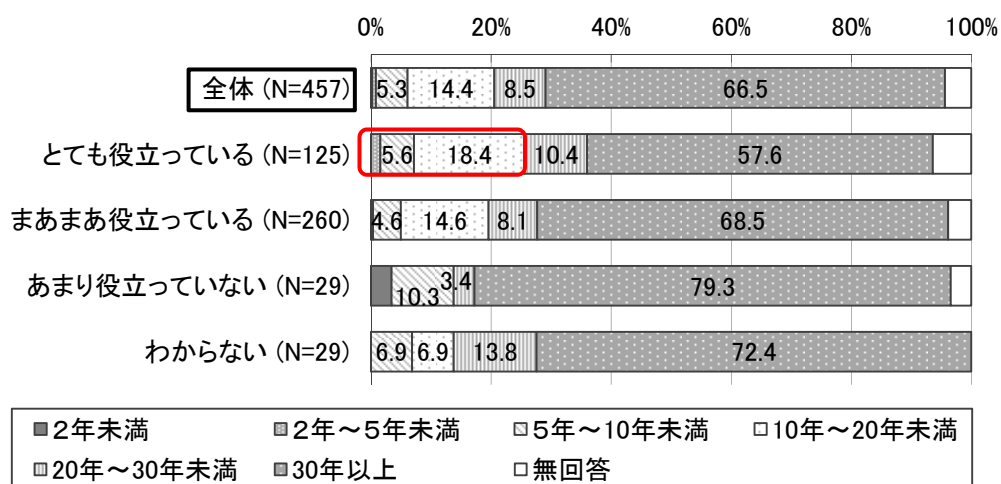
図 20 住宅形態（役立ち度別）



④地域での居住年数

役立ち度別にみると、いずれも「30 年以上」が最も多い。「とても役立っている」では、他に比べて「10 年未満」の割合がやや高い。

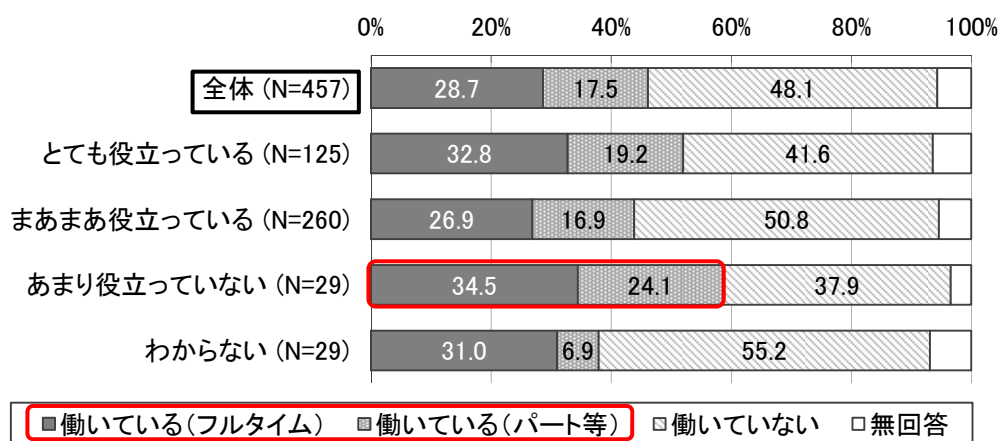
図 21 地域での居住年数（役立ち度別）



⑤就業状況

役立ち度別にみると、「あまり役立っていない」では、他に比べて、働いている人（フルタイムとパート等の計）の割合が高くなっている。

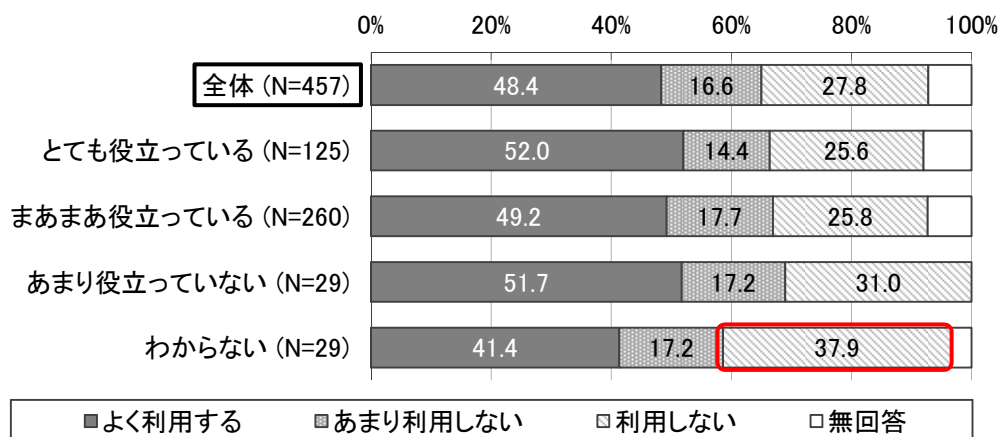
図 22 就業状況（役立ち度別）



⑥インターネット検索の利用状況

役立ち度別にみると、「わからない」では、他に比べて「利用しない」の割合がやや高い。

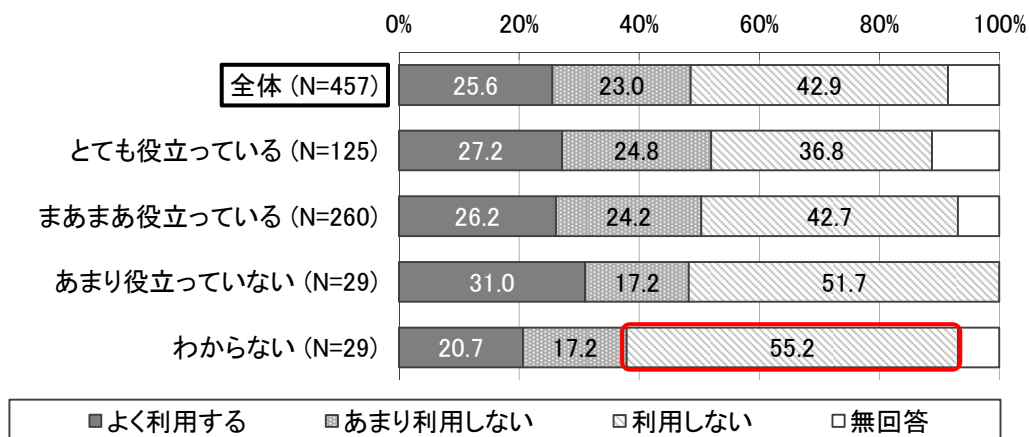
図 23 インターネット検索の利用状況（役立ち度別）



⑦ SNSの利用状況

役立ち度別にみると、「わからない」では、他に比べて「利用しない」の割合がやや高い。

図 24 SNSの利用状況（役立ち度別）



(2) 担い手の活動状況

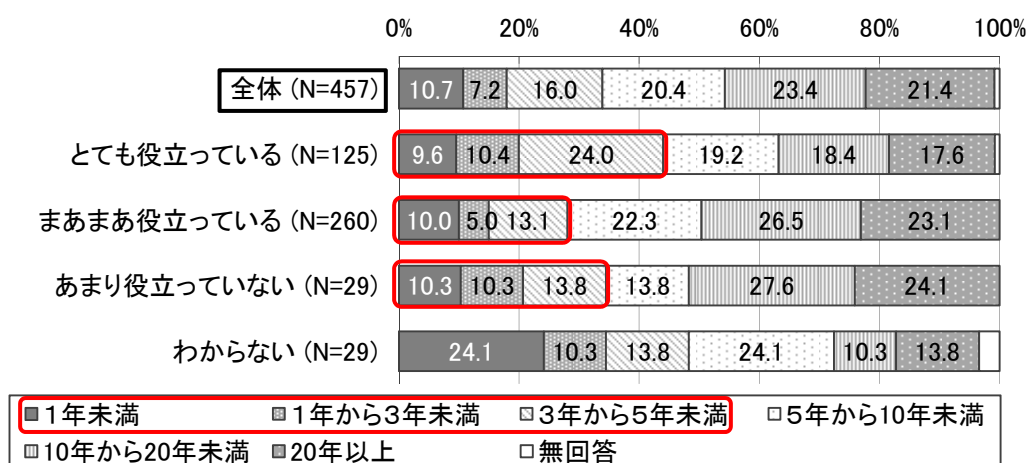
①担い手として初めて参加してからの期間

問1 あなたは、地域活動（まち協以外の活動も含めて）に、担い手（スタッフ、班長、役員等）として初めて参加してから、どれぐらいの期間がたっていますか。次の中から1つだけ選んで○印を付けてください。

担い手として初めて参加してからの期間は、「10年から20年未満」が23.4%と最も多く、「20年以上」（21.4%）、「5年から10年未満」（20.4%）と続いている。5年未満（「1年未満」「1年から3年未満」「3年から5年未満」の計）の担い手についても、合計すると33.9%を占めており、地域活動の担い手は、経験年数が豊富な担い手と、経験年数が短い担い手で構成されていることがわかる。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」では、「まあまあ役立っている」「あまり役立っていない」に比べて5年未満の割合が高くなっている。

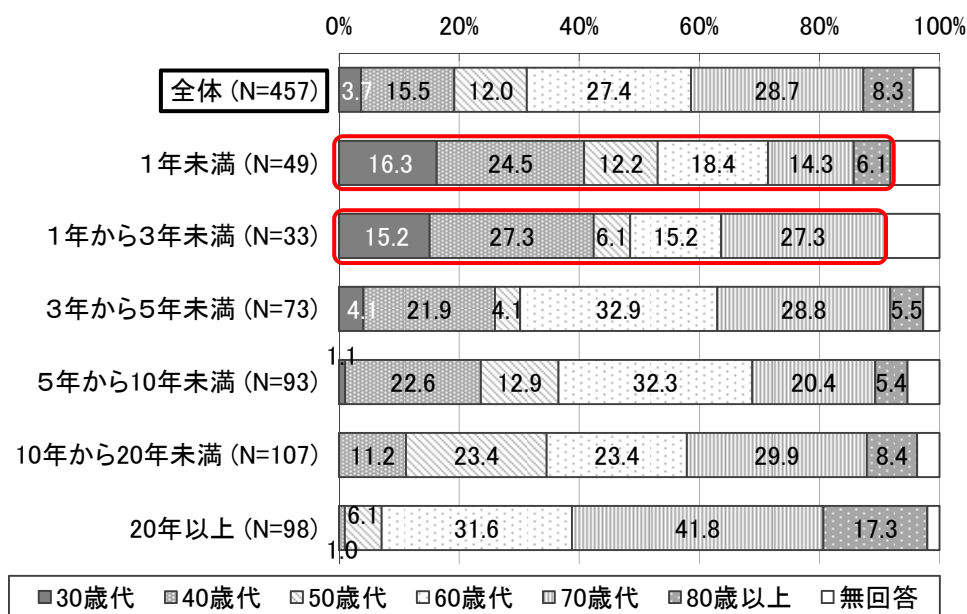
図25 担い手として初めて参加してからの期間（役立ち度別）



担い手として初めて参加してからの期間別に、担い手の年代をみると、参加してから「1年未満」や「1年から3年未満」の担い手については、30歳代から80歳代まで多様な年代がみられる。

このことから、まち協の運営の担い手については、毎年、多様な年代の担い手が新たに参加していることがわかる。

図 26 担い手の年代（担い手として初めて参加してからの期間別）



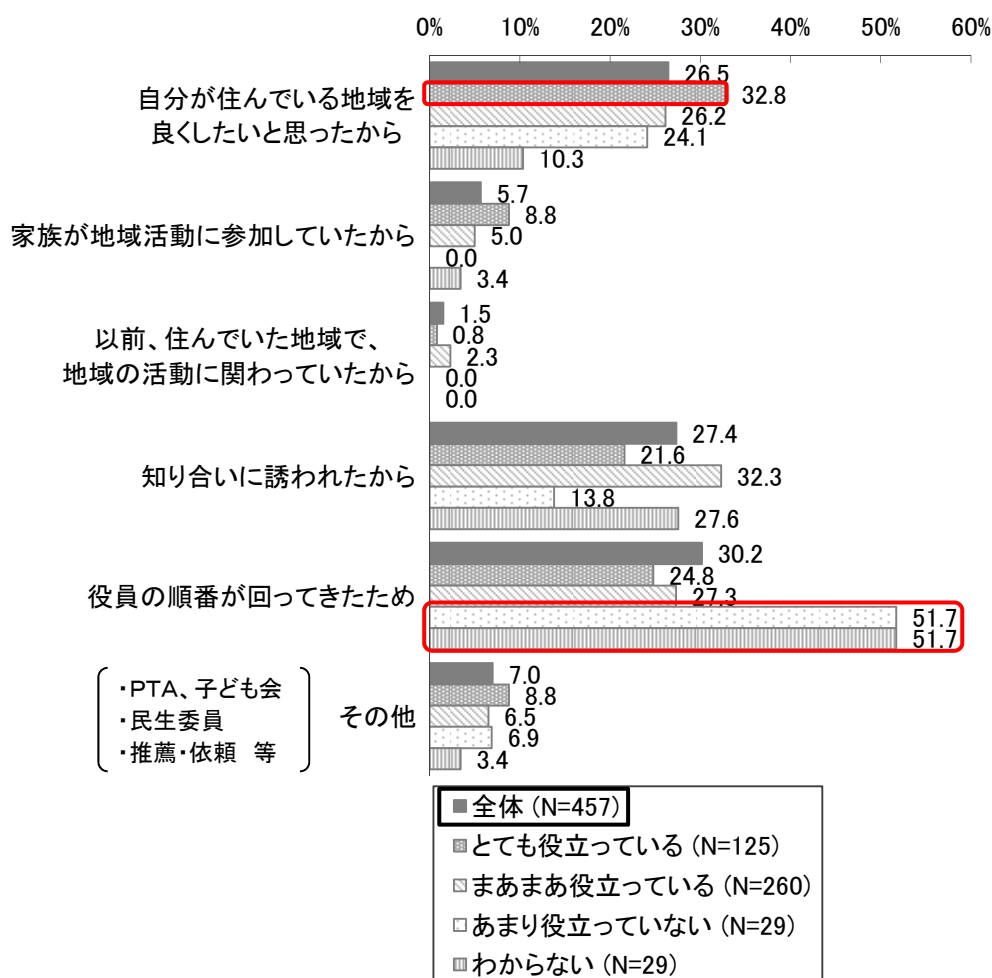
②地域活動に参加したきっかけ

問2 あなたが、地域活動の担い手（スタッフ、班長、役員等）として参加したきっかけをお聞かせください。次の中から1つだけ選んで○印を付けてください。

地域活動に参加したきっかけは、「役員の順番が回ってきたため」が30.2%と最も多く、次いで「知り合いに誘われたから」（27.4%）、「自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから」（26.5%）となっている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」では、他に比べて「自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから」の割合がやや高い。「あまり役立っていない」「わからない」では、他に比べて「役員の順番が回ってきたため」の割合が高くなっている。

図27 地域活動に参加したきっかけ(役立ち度別)

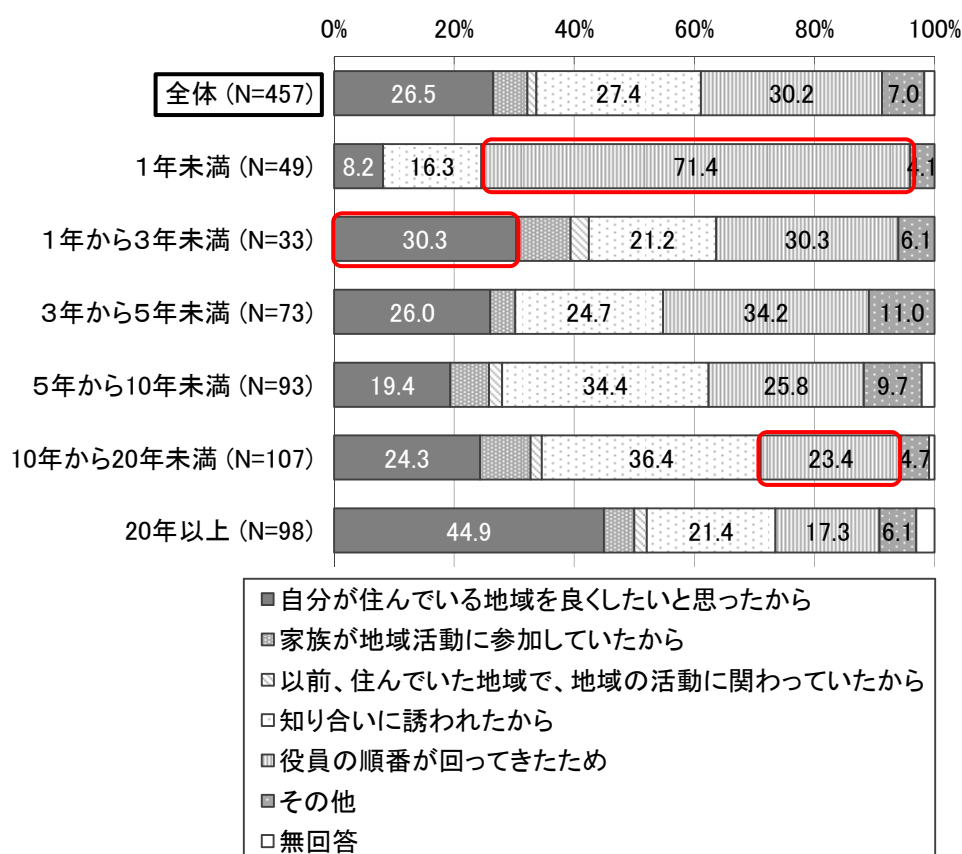


担い手として初めて参加してからの期間別に、参加したきっかけをみると、参加してから「1年未満」については、「役員の順番が回ってきたため」が71.4%と高くなっている。参加してから「1年から3年未満」では「自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから」が30.3%と、「1年未満」の8.2%から増えている。

このことから、「役員の順番」がきっかけで参加した人の一定割合は、役員が次の人に代わった段階で、地域活動から離れるという状況がうかがわれる。一方、「地域を良くしたい」と思って参加した人は、担い手としての活動を継続する人が多く、相対的に「1年から3年未満」での割合が高まったと推測される。

なお、「役員の順番」がきっかけで参加した人は、たとえば「10年から20年未満」の23.4%を占めている。このことから、参加したきっかけは「役員の順番」であったとしても、地域活動に参加した間に、「活動を継続してみよう」を思う経験や理由を作ることが重要と考えられる。

図 28 参加したきっかけ（担い手として初めて参加してからの期間別）



③地域活動に参加してよかったと思うこと

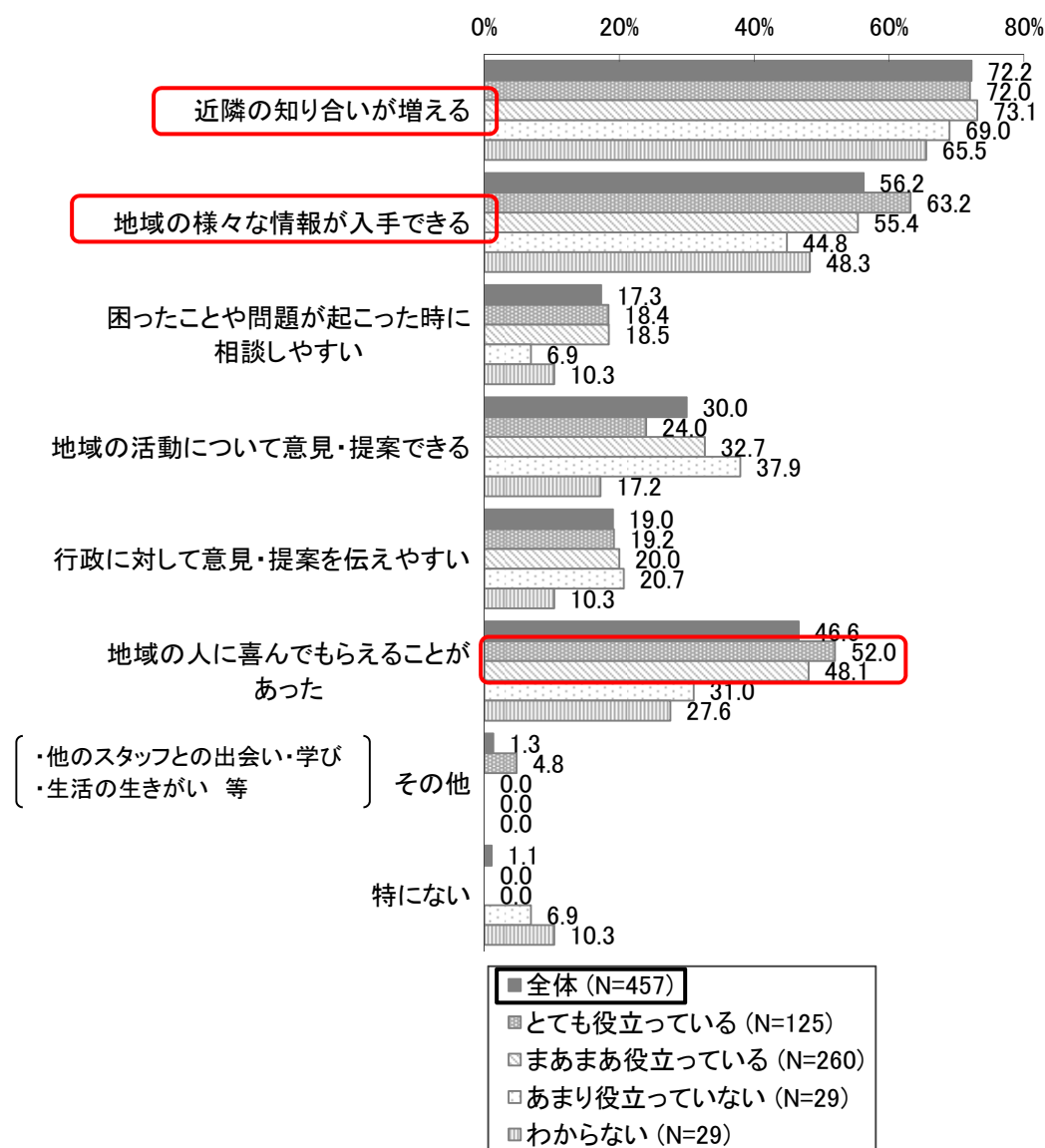
問3 あなたが、地域活動の担い手として参加していてよかったと思うことをお聞かせください。次の中から3つまで選んで○印を付けてください。

地域活動に参加してよかったと思うことは、「近隣の知り合いが増える」が72.2%と最も多く、次いで「地域の様々な情報が入手できる」(56.2%)、「地域の人に喜んでもらえることがあった」(46.6%)となっている。

役立ち度別にみると、いずれも「近隣の知り合いが増える」が最も多く、「地域の様々な情報が入手できる」が続いている。

「とても役立っている」「まあまあ役立っている」では、他に比べて「地域の人に喜んでもらえることがあった」の割合が高くなっている。

図29 地域活動に参加してよかったと思うこと（複数回答）（役立ち度別）



④地域活動に参加した後、増えたと感じる自身の行動

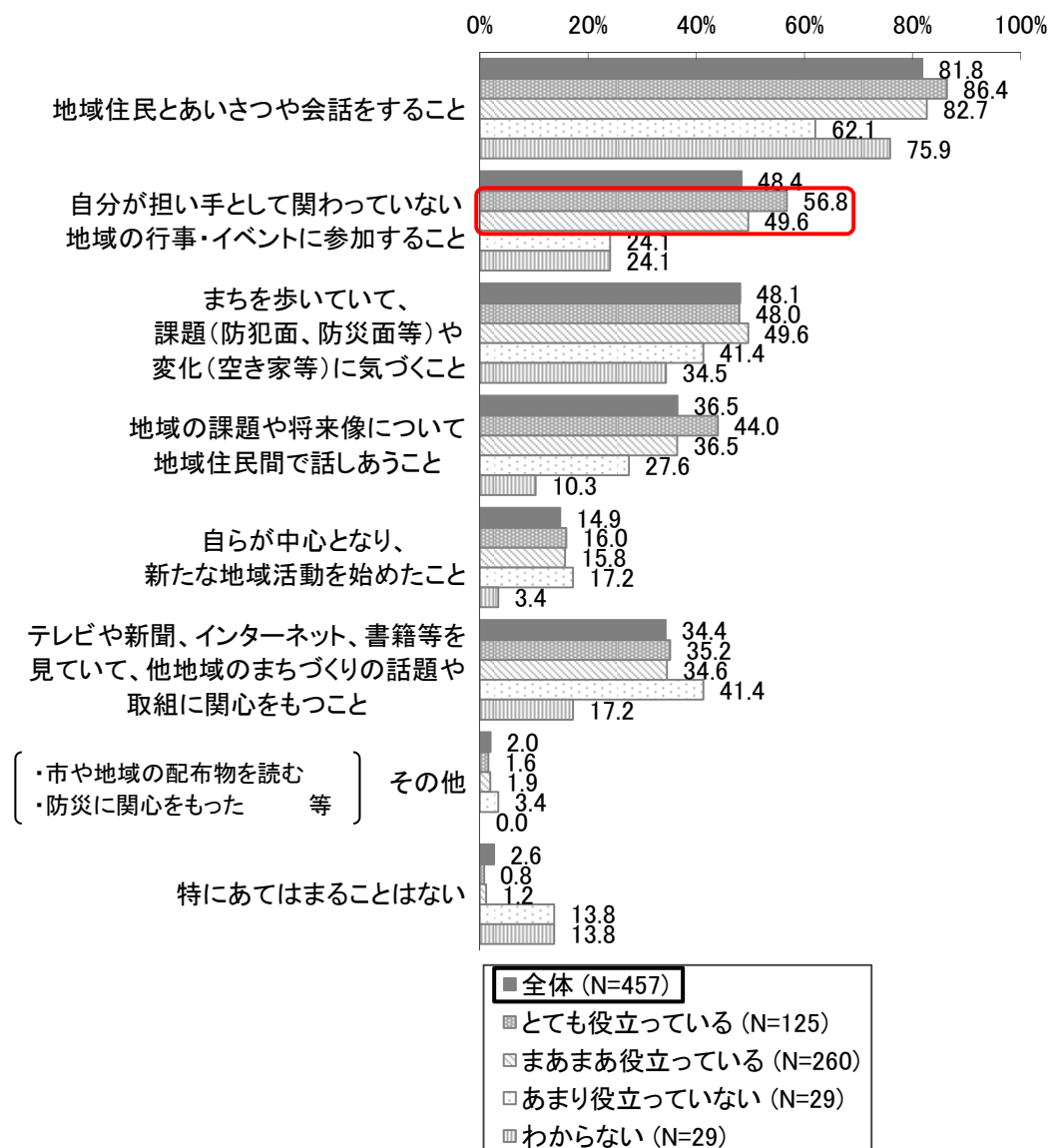
問4 あなたは、地域活動の担い手として参加した後、増えたと感じるご自身の行動をお聞かせください。次の中からあてはまるものをすべて選んで○印を付けてください。

地域活動に参加した後、増えたと感じる自身の行動は、「地域住民とあいさつや会話をする事」が81.8%と最も多く、次いで「自分が担い手として関わっていない地域の行事・イベントに参加すること」(48.4%)、「まちを歩いていて、課題(防犯面、防災面等)や変化(空き家等)に気づくこと」(48.1%)となっている。

役立ち度別にみると、いずれも「地域住民とあいさつや会話をする事」が最も多くなっている。

「とても役立っている」「まあまあ役立っている」では、他に比べて「自分が担い手として関わっていない地域の行事・イベントに参加すること」の割合が高くなっている。

図30 地域活動に参加した後、増えたと感じる自身の行動（複数回答）（役立ち度別）



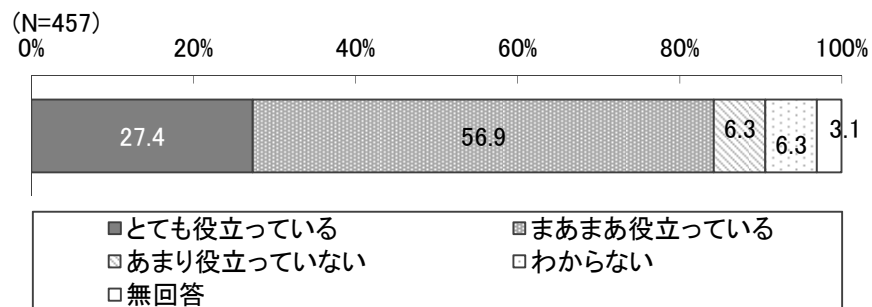
(3) まち協ができたことによる「地域活動の変化」

①地域のより良い暮らしの実現に向けてのまち協活動の役立ち

問5 あなたは、まち協の活動が、地域のより良い暮らしの実現に向けて役立っていると思いますか。
次の中から1つだけ選んで○印を付けてください。

地域のより良い暮らしの実現に向けてのまち協活動の役立ちは、「まあまあ役立っている」が56.9%と最も多く、次いで「とても役立っている」(27.4%)となっている。

図31 地域のより良い暮らしの実現に向けてのまち協活動の役立ち



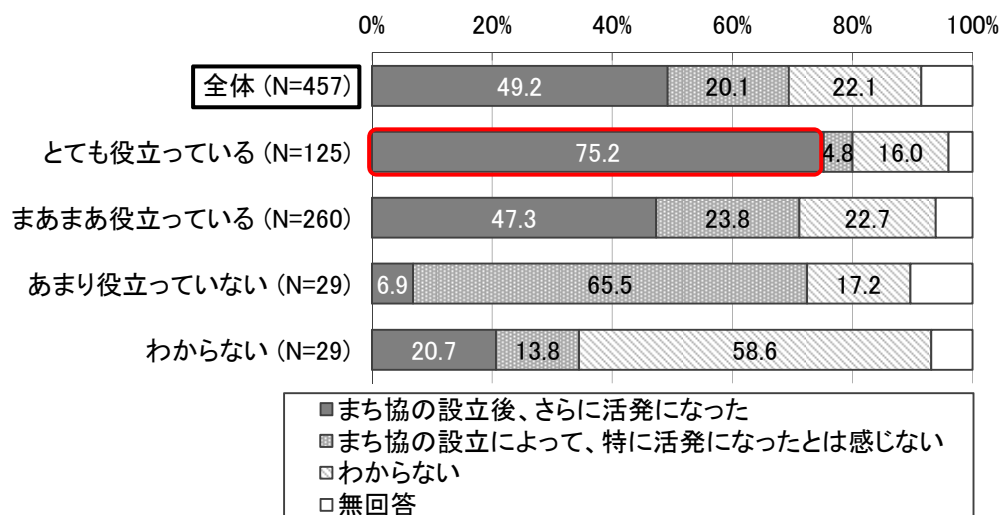
②住民主体の地域活動の活発化に対するまち協の影響

問6 お住まいの地域では、まち協ができたことにより、住民主体の地域活動（防犯・防災、福祉、子育ての活動等）が、活発になってきたと思いますか。次の中から1つだけ選んで○印を付けてください。

住民主体の地域活動の活発化に対するまち協の影響は、「まち協の設立後、さらに活発になった」が49.2%と最も多く、次いで「わからない」（22.1%）、「まち協の設立によって、特に活発になったとは感じない」（20.1%）となっている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」では、他に比べて「まち協の設立後、さらに活発になった」の割合が高くなっている。

図32 住民主体の地域活動の活発化に対するまち協の影響（役立ち度別）



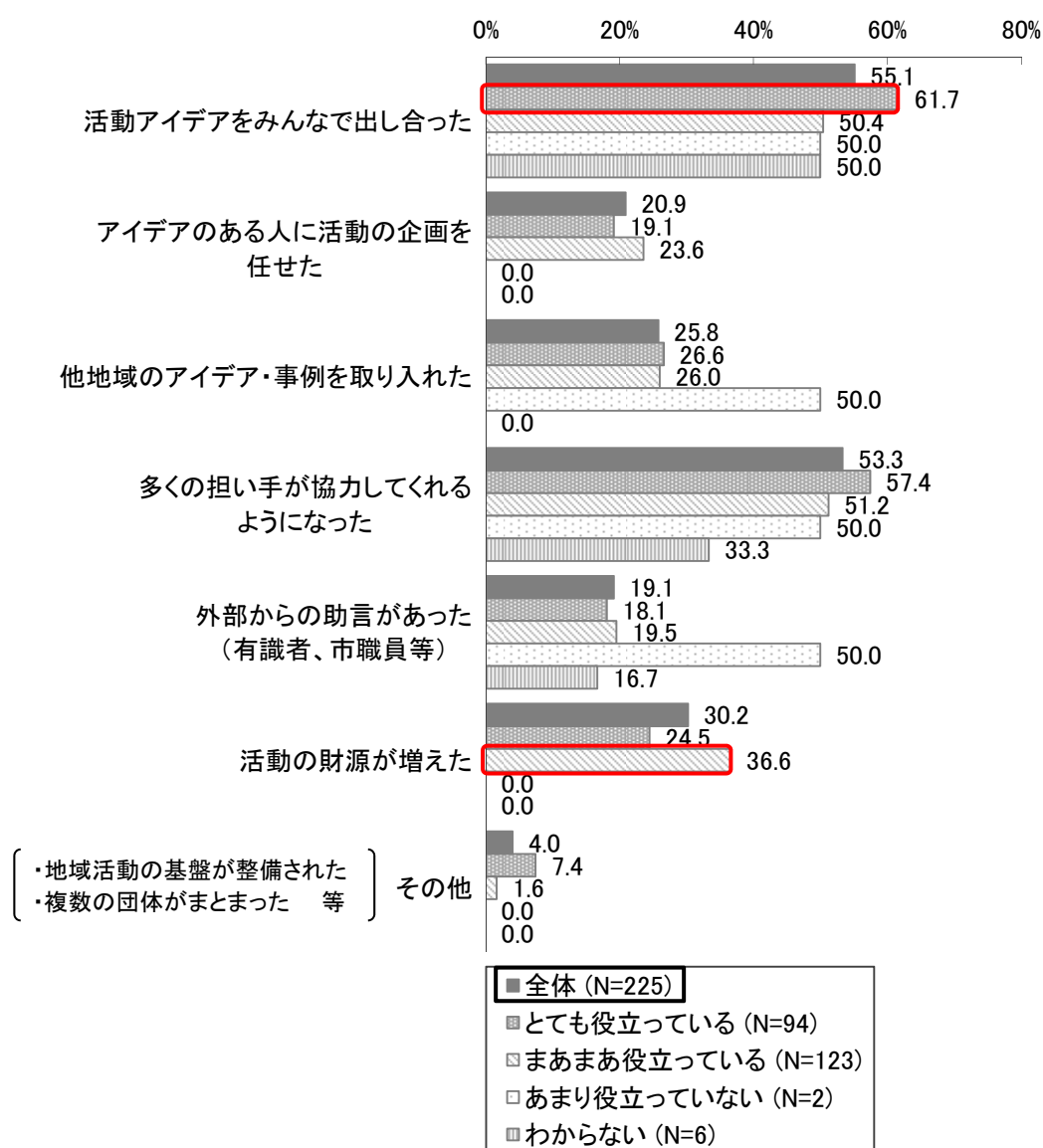
③まち協の活動が活発になった要因

問7 まち協の活動が活発になった要因として考えられることをお聞かせください。次の中から3つまで選んで○印を付けてください。

まち協の活動が活発になった要因は、「活動アイデアをみんなで出し合った」が55.1%と最も多く、次いで「多くの担い手が協力してくれるようになった」(53.3%)となっている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」では、他に比べて「活動アイデアをみんなで出し合った」がやや高い、また、「あまり役立っていない」では、他に比べて「外部からの助言があった(有識者、市職員等)」の割合が高くなっている。

図33 まち協の活動が活発になった要因(複数回答)(役立ち度別)



④担い手の参加状況の変化

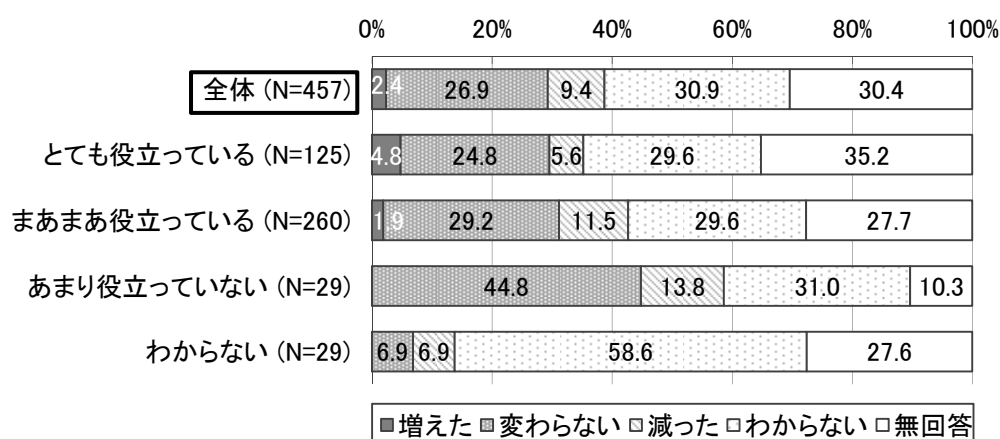
問8 まち協の設立後、地域活動の担い手（スタッフ、班長、役員等）として、次の属性の担い手の参加が増えたと感じますか。①～⑦の属性それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで○印を付けて下さい。

[①20代未満の住民]

「20代未満の住民」の参加状況の変化については、「わからない」が30.9%と最も多く、次いで「変わらない」（26.9%）となっている。「減った」（9.4%）が「増えた」（2.4%）を上回っている。

役立ち度別にみると、いずれも「減った」が「増えた」を上回っている。

図34 「20代未満の住民」の参加状況の変化（役立ち度別）

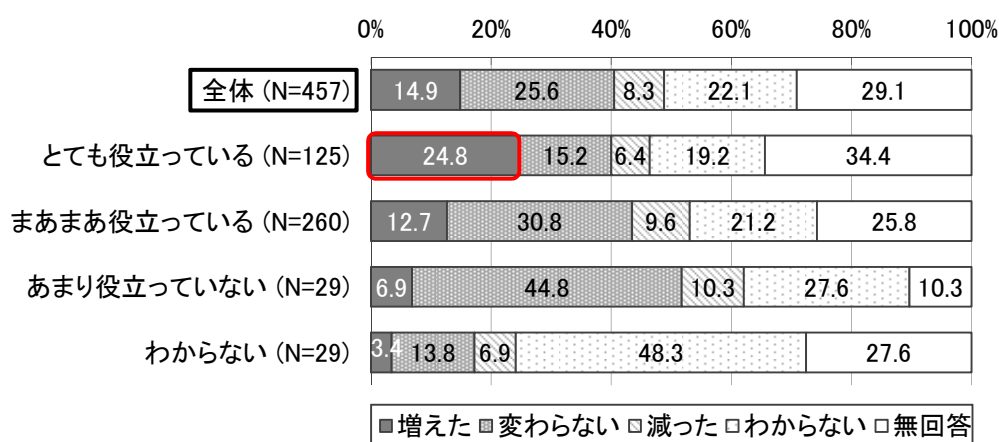


〔②20～40 代の住民〕

「20～40 代の住民」の参加状況の変化については、「変わらない」が 25.6%と最も多く、次いで「わからない」(22.1%)となっている。「増えた」(14.9%)が「減った」(8.3%)を上回っている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」と「まあまあ役立っている」では、「増えた」が「減った」を上回っている。特に「とても役立っている」では、「増えた」(24.8%)が、「減った」(6.4%)を大きく上回っている。

図 35 「20～40 代の住民」の参加状況の変化（役立ち度別）

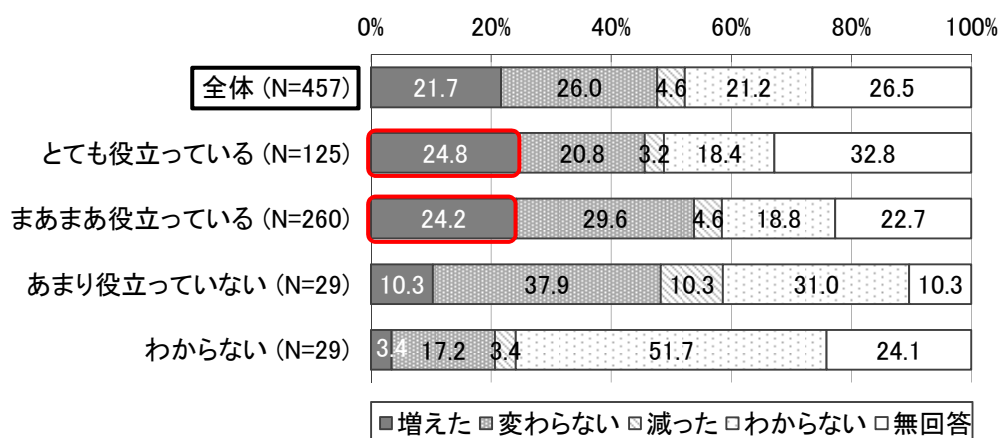


〔③50～60 代の住民〕

「50～60 代の住民」の参加状況の変化については、「変わらない」が 26.0%と最も多く、次いで「増えた」(21.7%)となっており、「増えた」(21.7%)が「減った」(4.6%)を上回っている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」「まあまあ役立っている」では、「増えた」(24.8%、24.2%)が「減った」(3.2%、4.6%)を大きく上回っている。

図 36 「50～60 代の住民」の参加状況の変化（役立ち度別）

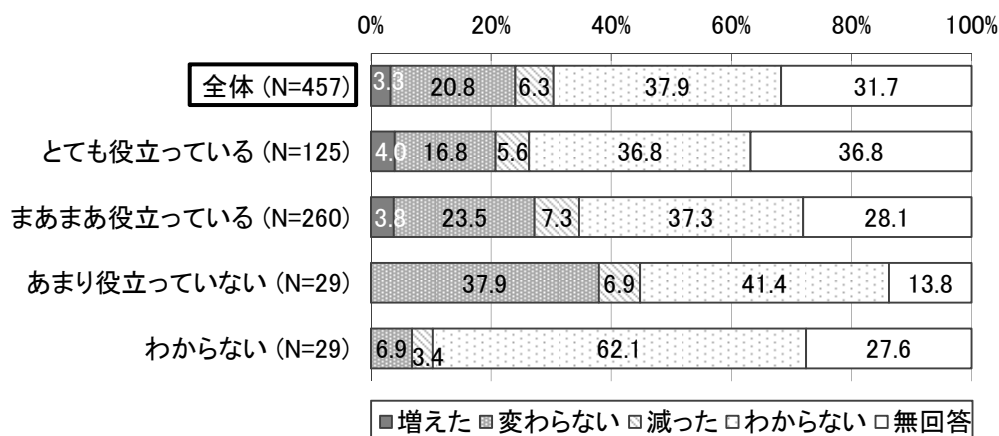


〔④高校生・大学生〕

「高校生・大学生」の参加状況の変化については、「わからない」が 37.9%と最も多く、次いで「変わらない」(20.8%) となっている。「減った」(6.3%) が「増えた」(3.3%) を上回っている。

役立ち度別にみると、いずれも「増えた」と「減った」の回答割合は少なく、参加状況の変化は多くない。

図 37 「高校生・大学生」の参加状況の変化（役立ち度別）

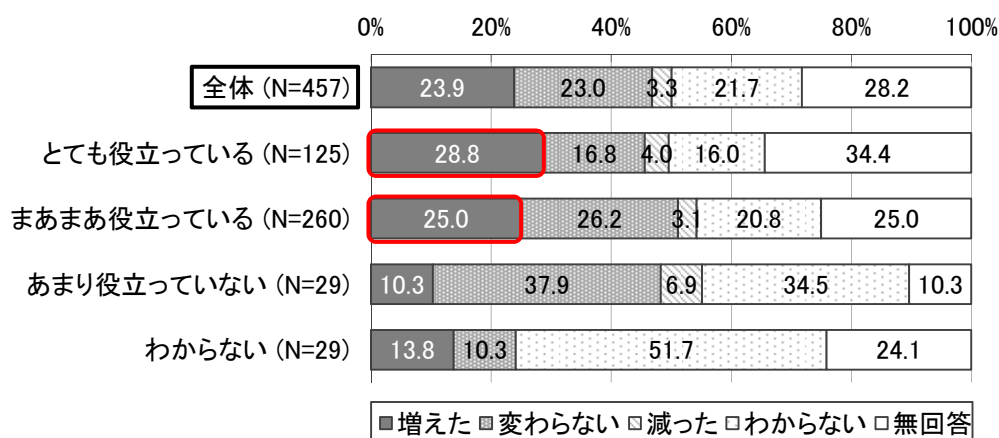


〔⑤女性〕

「女性」の参加状況の変化については、「増えた」が 23.9%と最も多く、次いで「変わらない」(23.0%) となっている。「増えた」(23.9%) が「減った」(3.3%) を上回っている。

役立ち度別にみると、いずれも「増えた」が「減った」を上回っている。特に「とても役立っている」「まあまあ役立っている」では、「増えた」(28.8%、25.0%) が「減った」(4.0%、3.1%) を大きく上回っている。

図 38 「女性」の参加状況の変化（役立ち度別）

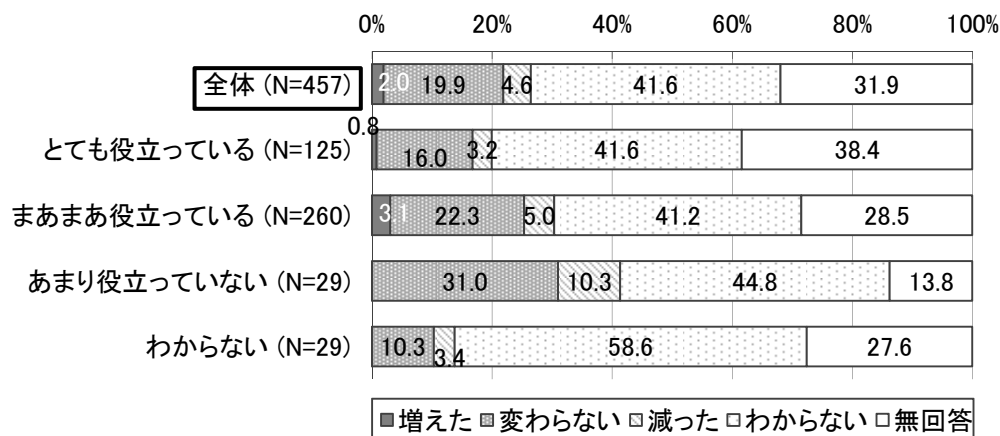


〔⑥地元事業所・商店の従業員〕

「地元事業所・商店」の参加状況の変化については、「わからない」が 41.6%と最も多く、次いで「変わらない」(19.9%) となっている。「減った」(4.6%) が「増えた」(2.0%) を上回っている。

役立ち度別にみると、いずれのグループでも「増えた」と「減った」の回答割合は少なく、参加状況の変化は多くない。

図 39 「地元事業所・商店の従業員」の参加状況の変化（役立ち度別）

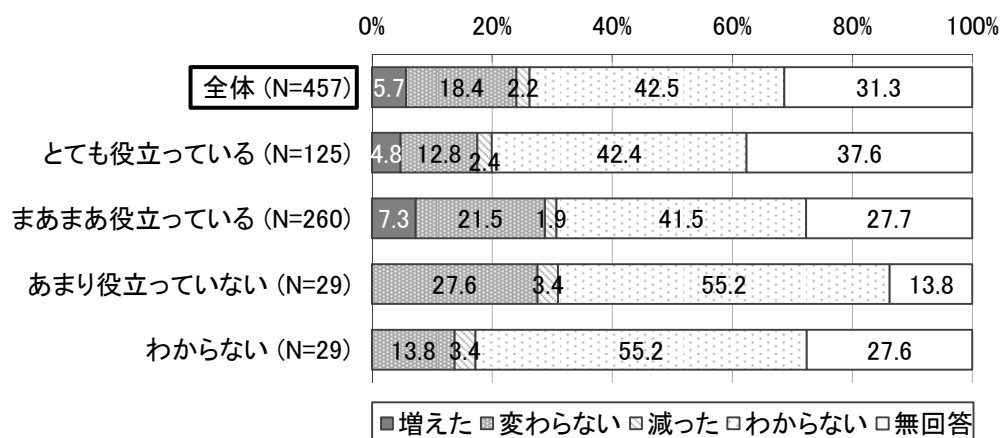


〔⑦NPO・ボランティア団体〕

「NPO・ボランティア団体」の参加状況の変化については、「わからない」が 42.5%と最も多く、次いで「変わらない」(18.4%) となっている。「増えた」(5.7%) が「減った」(2.2%) を上回っている。

役立ち度別にみると、いずれのグループでも「増えた」と「減った」の回答割合は少なく、参加状況の変化は多くない。

図 40 「NPO・ボランティア団体」の参加状況の変化（役立ち度別）



〔担い手の参加状況の変化（まとめ）〕

担い手の参加状況について、「増えた」と「減った」の差を一覧に整理した。「減った」の回答割合が「増えた」を上回っている場合は、回答欄に網掛けをしている。

役立ち度別に回答傾向をみると、「とても役立っている」「まあまあ役立っている」では、7項目のうち4項目で「増えた」が「減った」を上回っている。一方、「あまり役立っていない」「わからない」では、「増えた」が「減った」を上回っているのは1項目にとどまっている。

図 41 担い手の参加状況（「増えた」－「減った」の割合）（役立ち度別）

	全体 (N=457)	とても 役立って いる (N=125)	まあまあ 役立って いる (N=260)	あまり 役立って いない (N=29)	わからない (N=29)
①20代未満の住民	-7.0	-0.8	-9.6	-13.8	-6.9
②20～40代の住民	6.6	18.4	3.1	-3.4	-3.4
③50～60代の住民	17.1	21.6	19.6	0.0	0.0
④高校生・大学生	-3.1	-1.6	-3.5	-6.9	-3.4
⑤女性	20.6	24.8	21.9	3.4	13.8
⑥地元事業所・商店の従業員	-2.6	-2.4	-1.9	-10.3	-3.4
⑦NPO・ボランティア団体	3.5	2.4	5.4	-3.4	-3.4

⑤担い手を増やすために、まち協の運営で工夫していること

問9 担い手を増やすために、まち協の運営で工夫されていることがあればお聞かせください。

次のような回答があった。

●声をかける

- ・地域活動に興味・関心がありそうな方に声かけをする。
- ・PTAや育成会の運営に関わっている人に声かけをする。
- ・若い人に声をかけている。
- ・子どもの行事に参加した保護者に参加してもらいと思っている。

●まち協やまち協の活動を知ってもらう

- ・地域の人が参加できるイベントを通じて、活動を知っていただく。
- ・まち協を知らない住民がいるため、広報をしている。

●運営を工夫する

- ・若い人が発言しやすいように会議を運営している。
- ・役員の任期を2～3年にした。
- ・会議を1時間以内にする。
- ・簡単なお手伝いからはじめて、徐々に担当を広げていただく。

●その他

- ・小中学生に手伝ってもらっている。

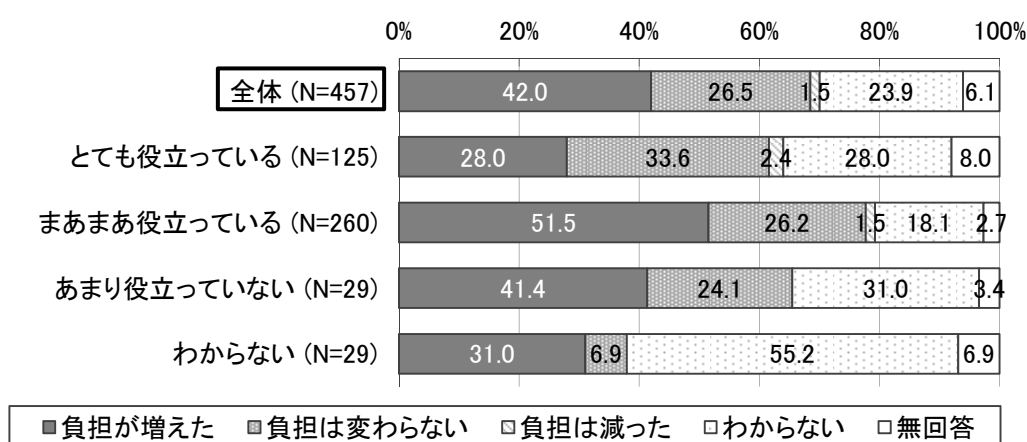
⑥担い手一人当たりの負担の変化

問 10 まち協の設立後、担い手一人当たりの負担はどのように変化しましたか。次の中から 1 つだけ選んで○印を付けてください。

担い手一人当たりの負担の変化は、「負担が増えた」が 42.0%で最も多く、次いで「負担は変わらない」(26.5%)となっている。「負担は減った」は 1.5%となっており、「負担が増えた」が「負担は減った」を大きく上回っている。

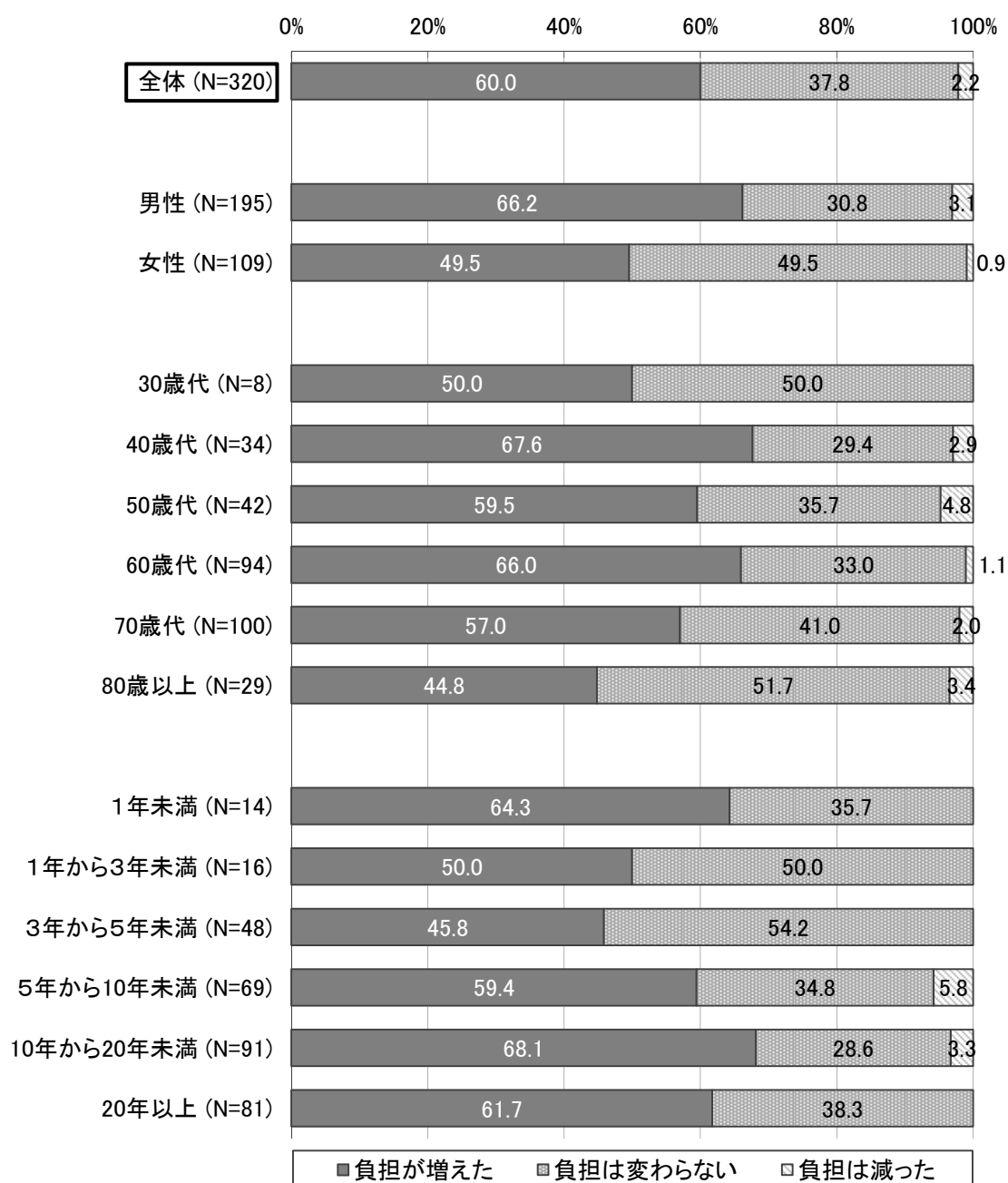
役立ち度別にみると、いずれも「負担が増えた」が「負担は減った」を大きく上回っている。「とても役立っている」では、他に比べて「負担が増えた」の割合が低くなっている。

図 42 担い手一人当たりの負担の変化（役立ち度別）



負担の変化について、「わからない」と「無回答」の回答を除いた回答割合を算出した。
 担い手一人あたりの負担の変化をみると、「負担が増えた」が60.0%となっている。
 性別にみると、「負担が増えた」は「男性」で66.2%となっている。
 年代別にみると、「負担が増えた」は「40歳代」で67.6%、「60歳代」で66.0%となっている。
 活動に参加してからの期間別にみると、「負担が増えた」は「10年から20年未満」で68.1%となっている。
 相対的に60歳代以下において「負担が増えた」の割合が高くなっており、活動の分かち合いなど負担を軽減する工夫が必要と考えられる。

図 43 担い手一人あたりの負担の変化（性別、年代別、活動に参加してからの期間別）



⑦担い手としての年間参加日数

問 11 あなたは、まち協の活動に担い手として年間何日ぐらい参加していますか。（ 日程度）

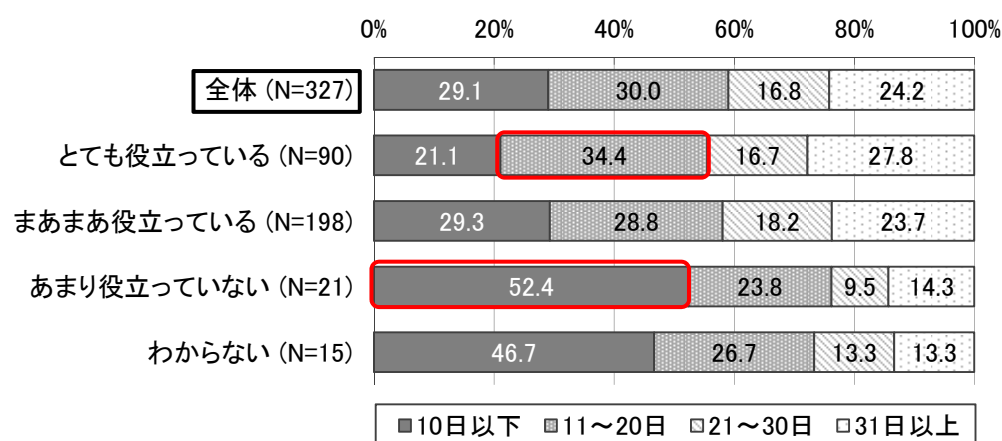
年間参加日数の回答を「10 日以下」、「11～20 日」、「21～30 日」、「31 日以上」に分類し、割合を算出した（無回答を除く）。

担い手としての年間参加日数は、「11～20 日」が 30.0%で最も多く、次いで「10 日以下」(29.1%)、「31 日以上」(24.2%) となっている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」では、他に比べて「11～20 日」の割合がやや高い。

一方、「あまり役立っていない」では「10 日以下」の割合が高くなっている。

図 44 担い手としての年間参加日数（役立ち度別）



⑧活動の分かち合いなど、まち協の運営で工夫していること

問 12 担い手一人当たりの負担を減らすために、活動の分かち合い（できること・できる人が・できる時に）など、まち協の運営で工夫されていることがあればお聞かせください。

次のような回答があった。

●役割分担をする

- ・リーダーに活動が集中しないよう、昨年度の活動を踏まえ役割分担を決めている。
- ・浅く広くいろんな人が関わることができるような運営をすれば、少しでもいろんな行動や活動に関われると思う。
- ・まちづくりの目標ごとに分担をしている。

●できる範囲で協力してもらう

- ・みなさんに自分の参加できる時間帯での参加を呼びかけている。
- ・全員ボランティアなので「できることを持ち寄ればよい」ことにしている。

●担い手を増やす、育てる

- ・同じメンバーではなく、常に新しいメンバーを加えて、知っている人や事を増やす。
- ・PTAやPTA経験者に積極的に声をかけている。
- ・一緒に活動することで、見て覚えて、代わりに動いてくれるようになった。年下の人が育ってきている。

●若い世代に任せる

- ・事業の計画は若い人たちに任せている。
- ・若い人が参加しやすいように行事は日・祝に開催し、会議は 19:00 開始としている。

●部会を設立する

- ・まち協の中に部会を作った。部会長が事業や体制を立案し、活動の主体を部会で実行している。
- ・部会を作ったことで負担が軽減された。

●運営での工夫

- ・過去の豊富な経験と体験を持たれた方と意見交換を行っている。
- ・月に 1 回まち協の役員会議を開いて、意見を出し合っている。
- ・連絡がとれる手段をつくり、連絡を密にすることで負担を全員で分担している。
- ・会議は早く終わるようにしている。

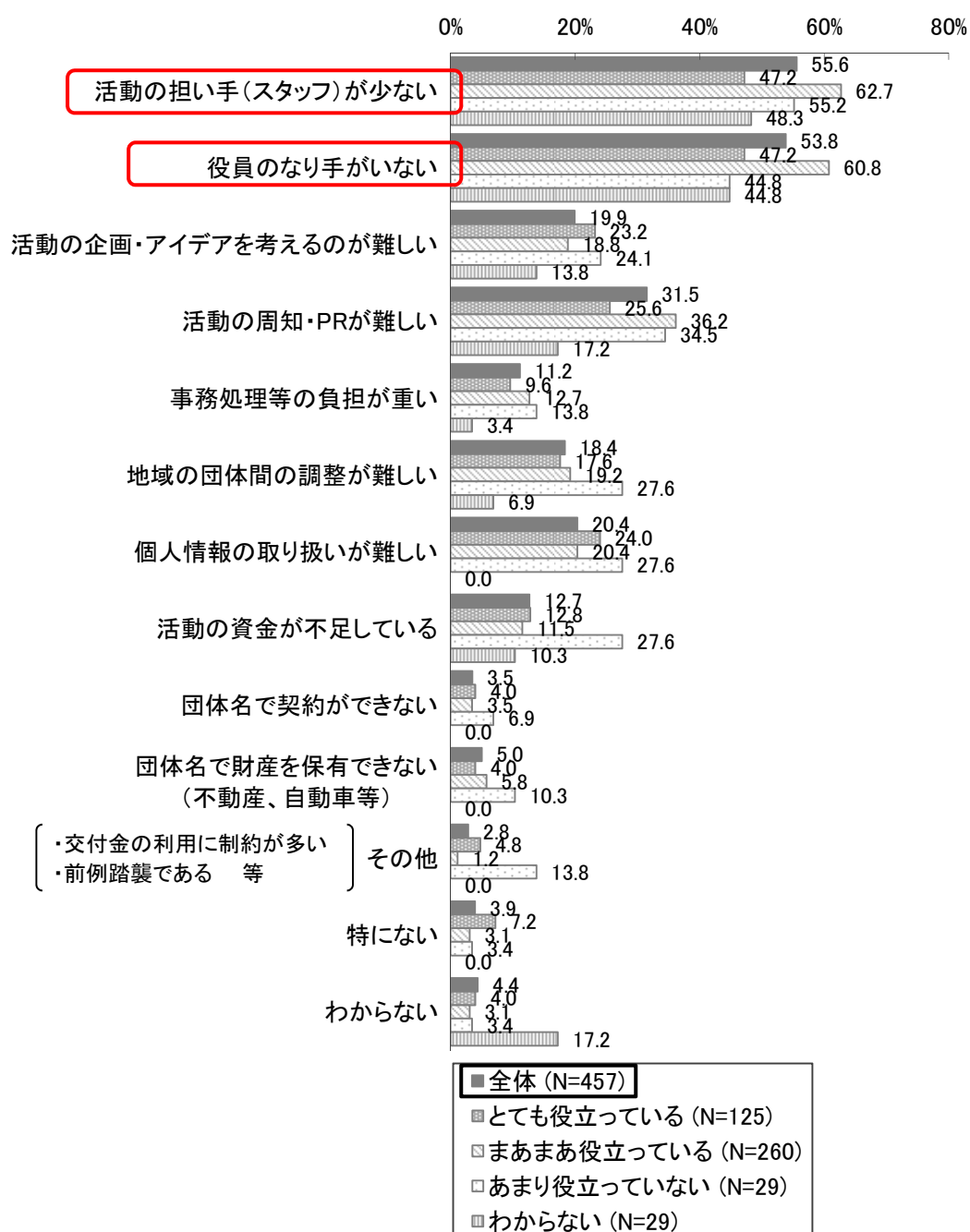
⑨まち協の運営上の課題

問 13 まち協の運営にあたって、課題として感じておられることをお聞かせください。次の中からあてはまるものをすべて選んで○印を付けてください。

まち協の運営上の課題は、「活動の担い手（スタッフ）が少ない」が 55.6%で最も多く、次いで「役員のなり手がいない」（53.8%）となっている。

役立ち度別にみると、いずれも「活動の担い手（スタッフ）が少ない」「役員のなり手がいない」が多くなっている。

図 45 まち協の運営上の課題（複数回答）（役立ち度別）



⑩まち協の運営にあたって課題を解決するために必要と考えていること

問 14 まち協の運営にあたって課題を解決するために必要と考えていることをお聞かせください。

次のような回答があった。

●まち協の位置づけ・役割の明確化、担い手の意識の共有

- ・まち協、町会、自治振、福祉委員会、各々の活動の整理が必要である。
- ・まち協の達成目標（あるべき姿）、活動者の責任・権限・予算を明確にする。
- ・まち協と地区福祉の2つの組織は不要。1つにまとめてほしい。
- ・各種団体の代表は、まち協に積極的に参加し、内容を理解・把握してほしい。

●地域活動やまち協についての住民への周知

- ・PR 不足である。町会の役員をして初めて「校区のまちづくり協議会」を知った。
- ・まち協の活動、予算を理解してもらえるように、住民に説明する努力が必要。

●よりよい活動を企画するための工夫や課題

- ・魅力あるイベントの企画が必要である。
- ・地域住民とのふれ合いによる対話でいろいろな情報を得て集約する。
- ・本音の討論、話し合いが足りない。
- ・地域特有（独自）の課題については話し合えていない。
- ・当年度の計画、実行を反省し、次年度にまずはやってみる。

●担い手の確保、活動の負担を減らすための工夫や課題

- ・まち協の役員だけでなく、多くのボランティアに携わってもらえることを増やす。
- ・もっと若い世代の方に参加してもらえるような仕掛けが必要である。
- ・もっといろいろな方が積極的に参加できれば地域が盛り上がってくると思う。
- ・役員の若返りをし、新しい考えを入れていく。
- ・会議の負担を減らすことが必要である。
- ・福祉委員会や各団体の取り組みと併せて優先順位をつけて地域活動をしないとパンクする。人材のすそ野を広げつつ、活動は的を絞り、同じような行事は1つにする。

●広報、事務等の課題

- ・広報活動を活発にし、どの年齢層にも知らせる工夫をすることが大切である。
- ・専属の事務処理担当者が必要である。有償でもよいのではないか。
- ・まちづくり協議会の運営資金が不足している。
- ・まち協の交付金の使途について、制限がありすぎて困る。

(4) まち協の住民への周知や活動への参加状況

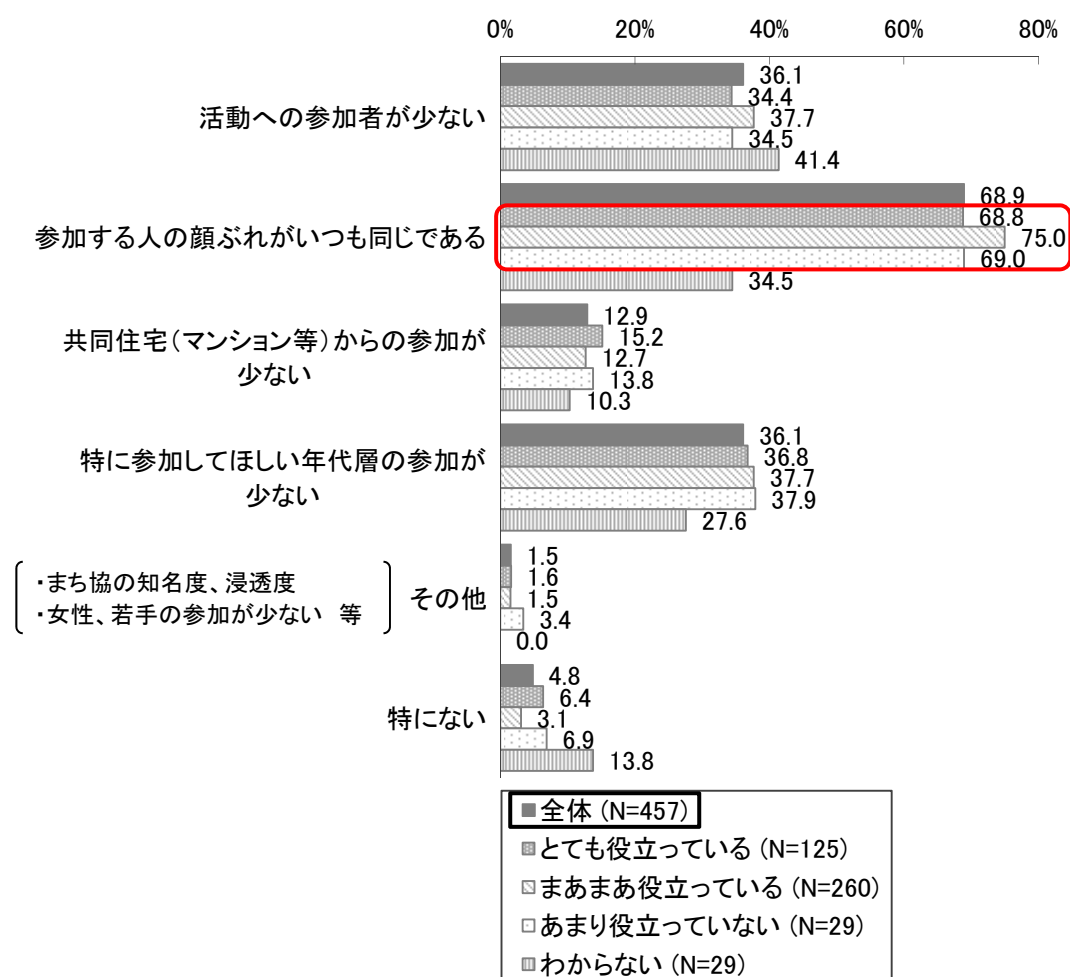
①地域住民の参加状況の課題

問 15 まち協の活動に対する地域住民の参加状況について、課題として感じておられることとお聞かせください。次の中から2つまで選んで○印を付けてください。

地域住民の参加状況の課題は、「参加する人の顔ぶれがいつも同じである」が68.9%と最も多く、次いで「活動への参加者が少ない」(36.1%)、「特に参加してほしい年代層の参加が少ない」(36.1%)となっている。

役立ち度別にみると、「わからない」を除く3グループで「参加する人の顔ぶれがいつも同じである」の割合が最も高くなっている。

図 46 地域住民の参加状況の課題（複数回答）（役立ち度別）



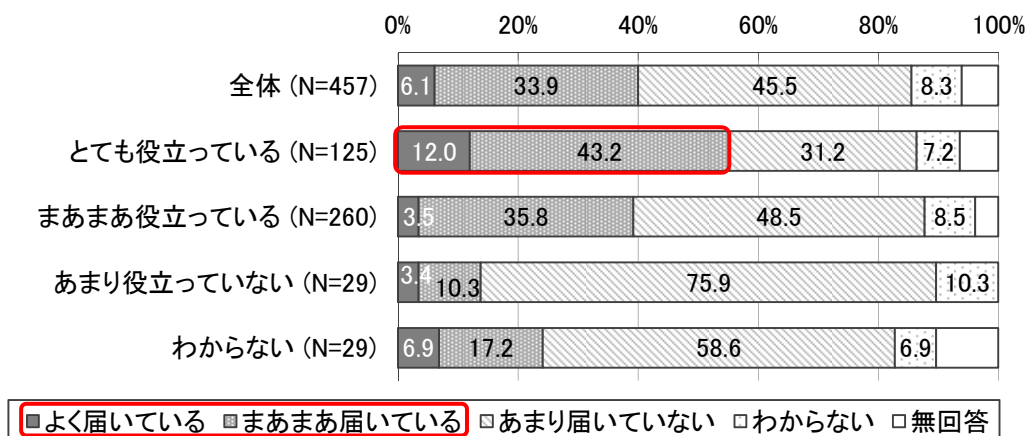
②地域の住民へまち協の活動情報が届く程度

問 16 あなたは、まち協の活動の情報は、地域の住民にどの程度届いていると思いますか。次の中から 1 つだけ選んで○印を付けてください。

地域の住民へまち協の活動情報が届く程度は、「あまり届いていない」が 45.5%と最も多く、次いで「まあまあ届いている」(33.9%)、「わからない」(8.3%) となっている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」では、他に比べて「よく届いている」「まあまあ届いている」の割合が高くなっている。

図 47 地域の住民へまち協の活動情報が届く程度（役立ち度別）



③まち協の情報を周知するために、まち協で工夫していること

問 17 まち協の情報を周知するために、まち協で工夫されていることがあればお聞かせください。

次のような回答があった。

●広報紙・ニュースの発行

- ・月 1 回ニュースを全戸配布している。
- ・「まち協だより」を作成。町会を通じて配布するとともに、町会未加入者にはポスティングで配布している。
- ・年 2 回 P R 情報を各家庭に配布し、行事の案内をしている。
- ・まち協通信を回覧物の一番上に置くようにしている。

●ポスター等の掲示

- ・掲示板を作り、まち協の情報を貼り出している。
- ・期限がくるまで掲示を続けるようにしている。
- ・掲示物をビニールで包装した上で、掲示している。
- ・マンション掲示板への掲示を依頼している。(管理人等を通じて)

●回覧

- ・プリントを作成いただき、自治会の回覧等で広報している。
- ・回覧板でしっかりと告知している。

●インターネット

- ・ホームページを作って情報を発信している。

●声掛け・説明

- ・知り合い等に直接声をかけ、お誘いしている。
- ・町会の会議で、常にまち協の活動を説明している。

●広報での課題

- ・回覧板をよく回しているが、あまり読んでおられないように感じている。
- ・いろいろな情報を発信しているが、周知できていない。
- ・まち協の活動は、結局自治会（町会）加入者に留まり、未加入者に届いていない。
- ・住民がまち協をあまりわかっていない。

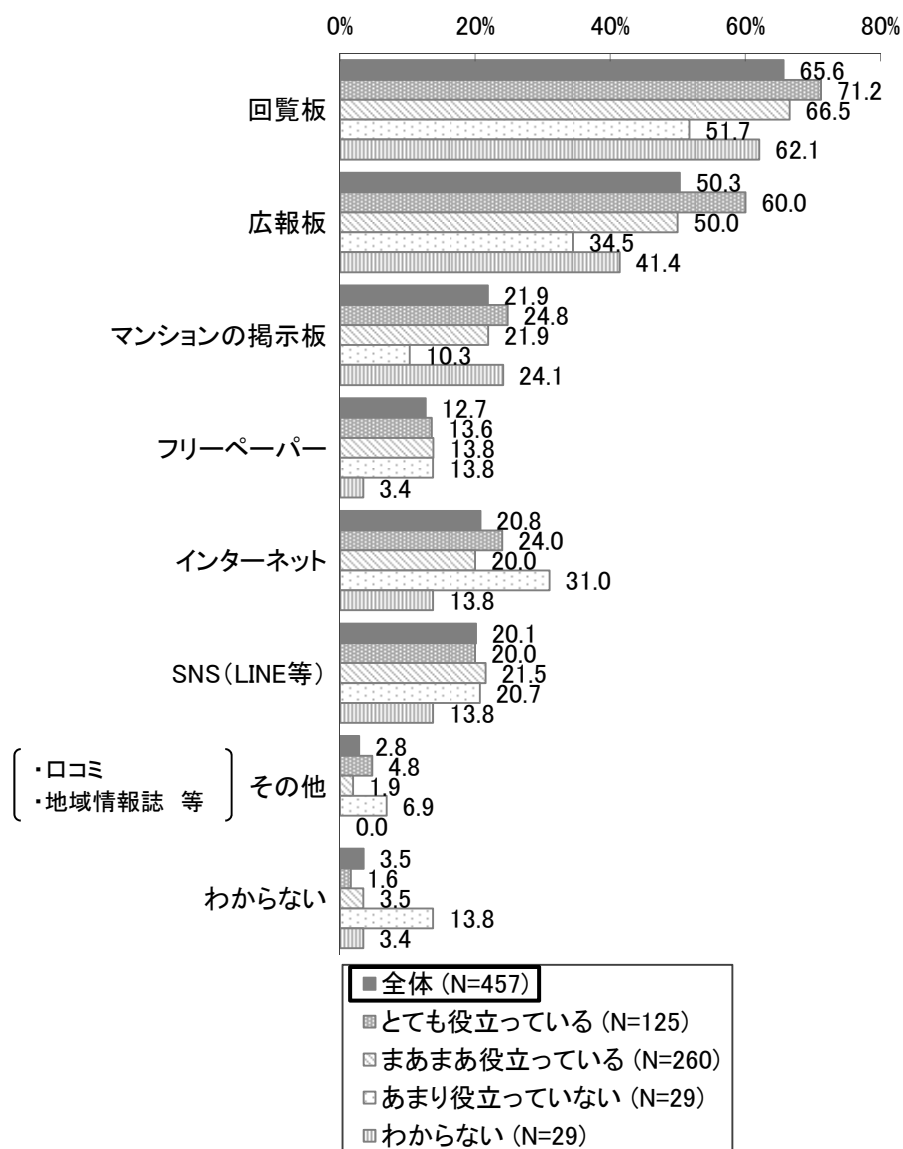
④もっと活用したらよいと思われる周知手段

問 18 あなたは、まち協の情報について、地域のより多くの人に周知するために、どのような手段をもっと活用したらよいと思いますか。次の中から3つまで選んで○印を付けてください。

もっと活用したらよいと思われる周知手段は、「回覧板」が 65.6%と最も多く、次いで「広報板」(50.3%) となっている。

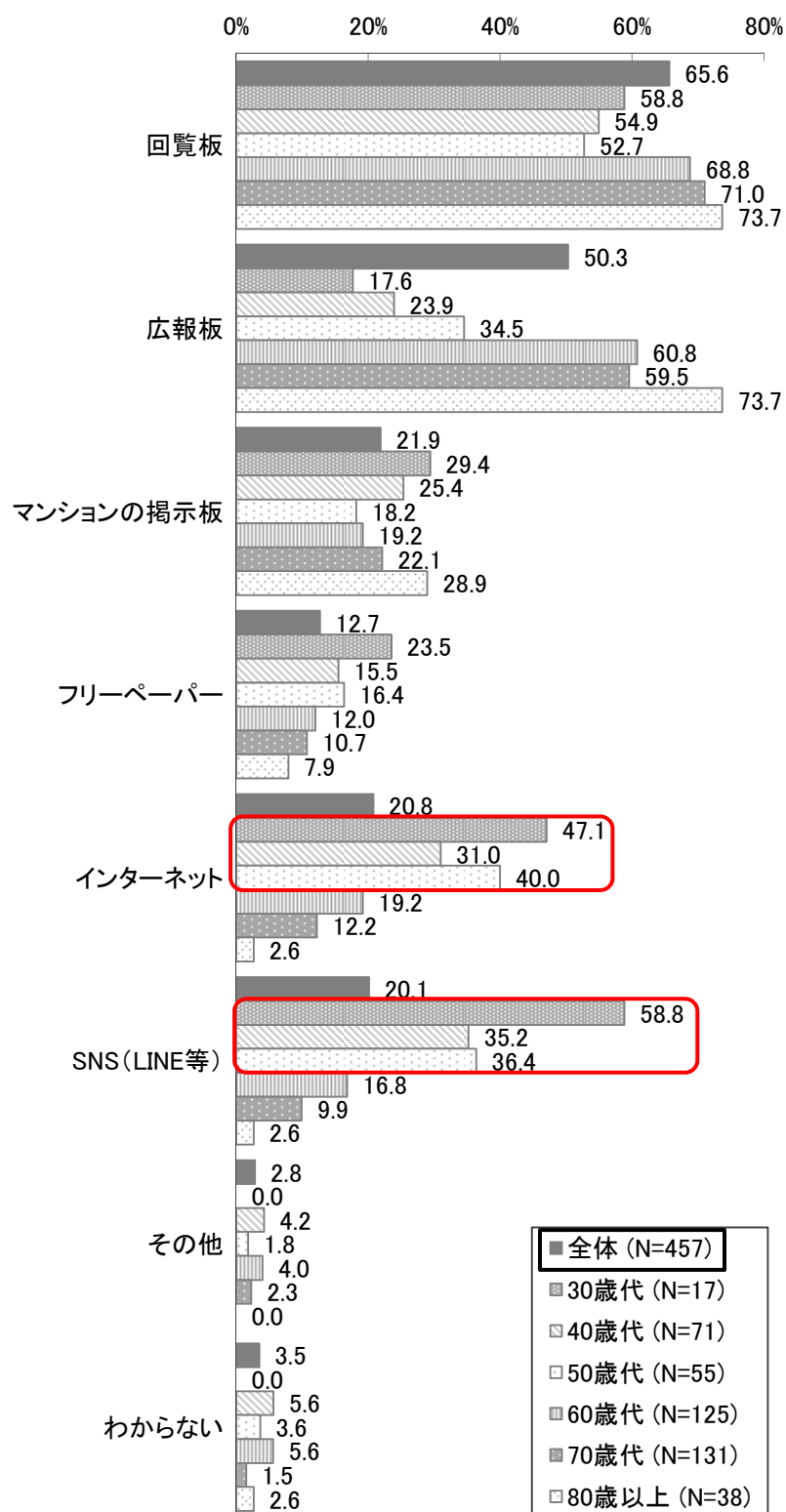
役立ち度別にみると、いずれも「回覧板」が最も多く、次いで「広報板」が続いている。

図 48 もっと活用したらよいと思われる周知手段（複数回答）（役立ち度別）



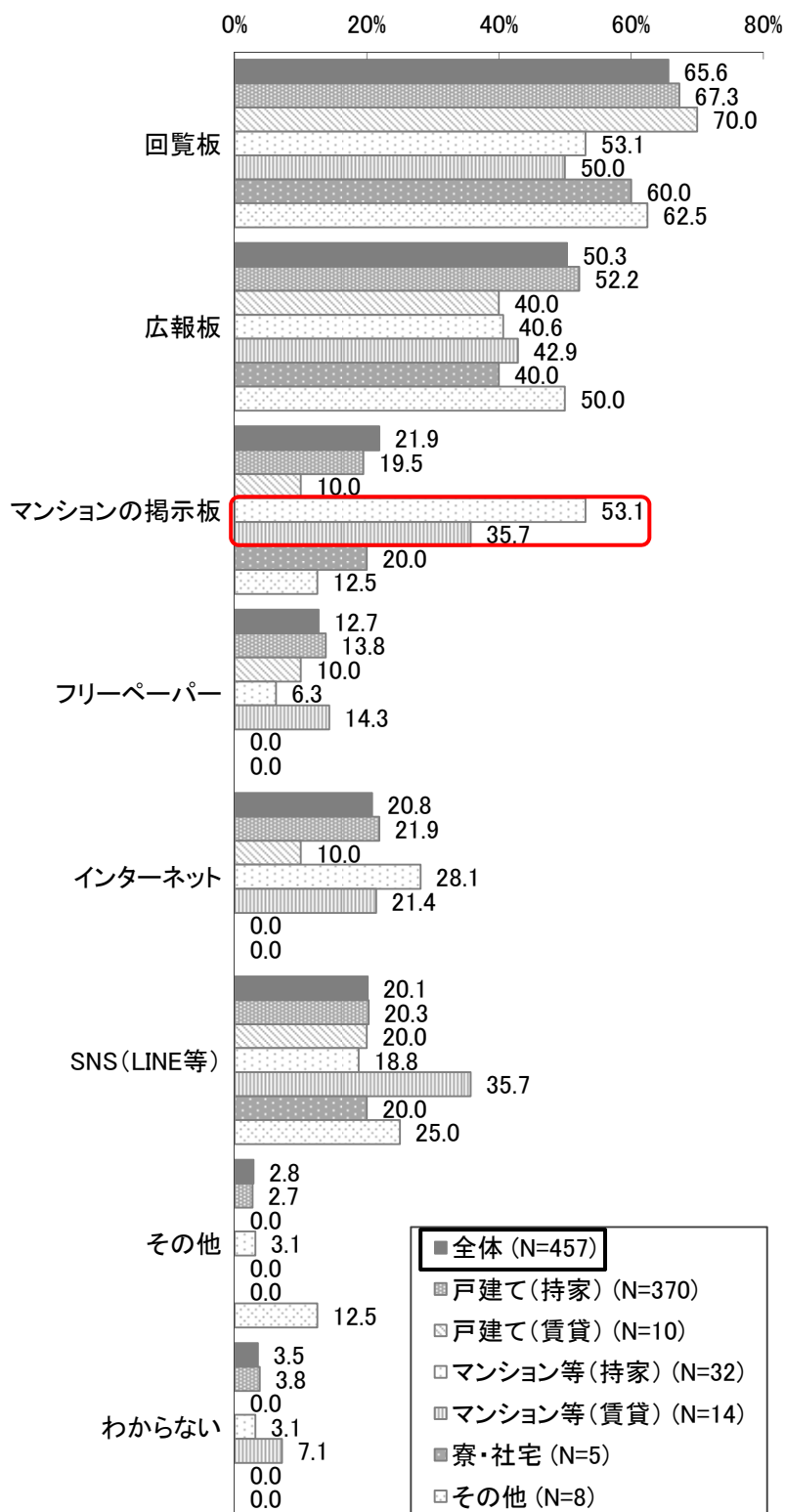
年代別にみると、30 歳代～50 歳代において、他の年代に比べて「インターネット」や「SNS（LINE 等）」の割合が高くなっている。

図 49 もっと活用したらよいと思われる周知手段（複数回答）（年代別）



住宅形態別にみると、「マンション等（持家）」、「マンション等（賃貸）」において、他の住宅形態に比べて「マンションの掲示板」の割合が高くなっている。

図 50 もっと活用したらよいと思われる周知手段（複数回答）（住宅形態別）



(5) まち協の活動全般について

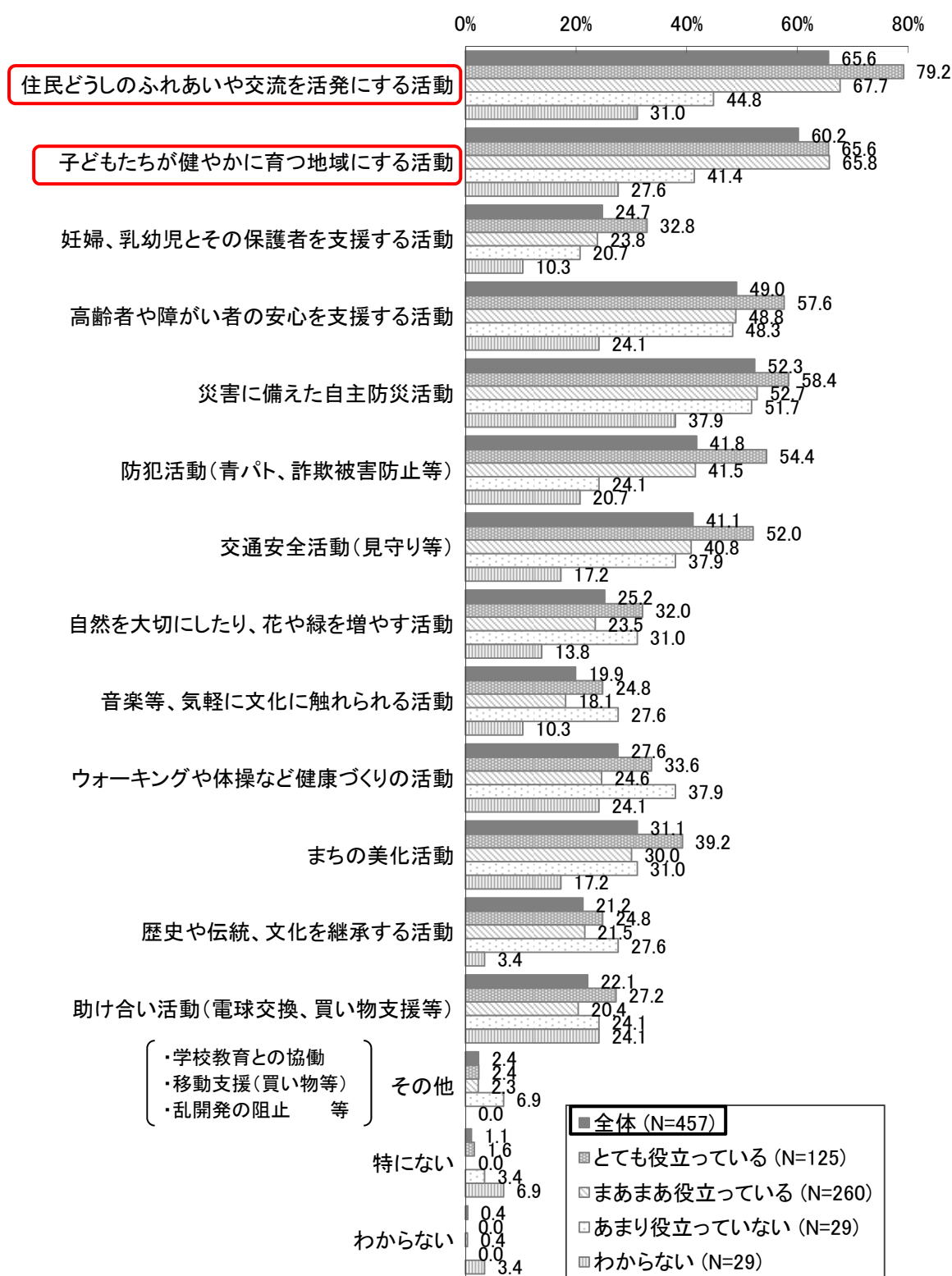
①今よりもっと力を入れて取り組むことが必要な活動

問19 あなたは、お住まいの地域での暮らしをより良くしていくために、今後どのような活動に、今よりもっと力を入れて取り組むことが必要と思われますか。次の中からあてはまるものをすべてに○印を付けてください。

今よりもっと力を入れて取り組むことが必要な活動としては、「住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動」が 65.6%と最も多く、次いで「子どもたちが健やかに育つ地域にする活動」(60.2%) となっている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」「まあまあ役立っている」では「住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動」、「あまり役立っていない」「わからない」では「災害に備えた自主防災活動」がそれぞれ最も高くなっている。

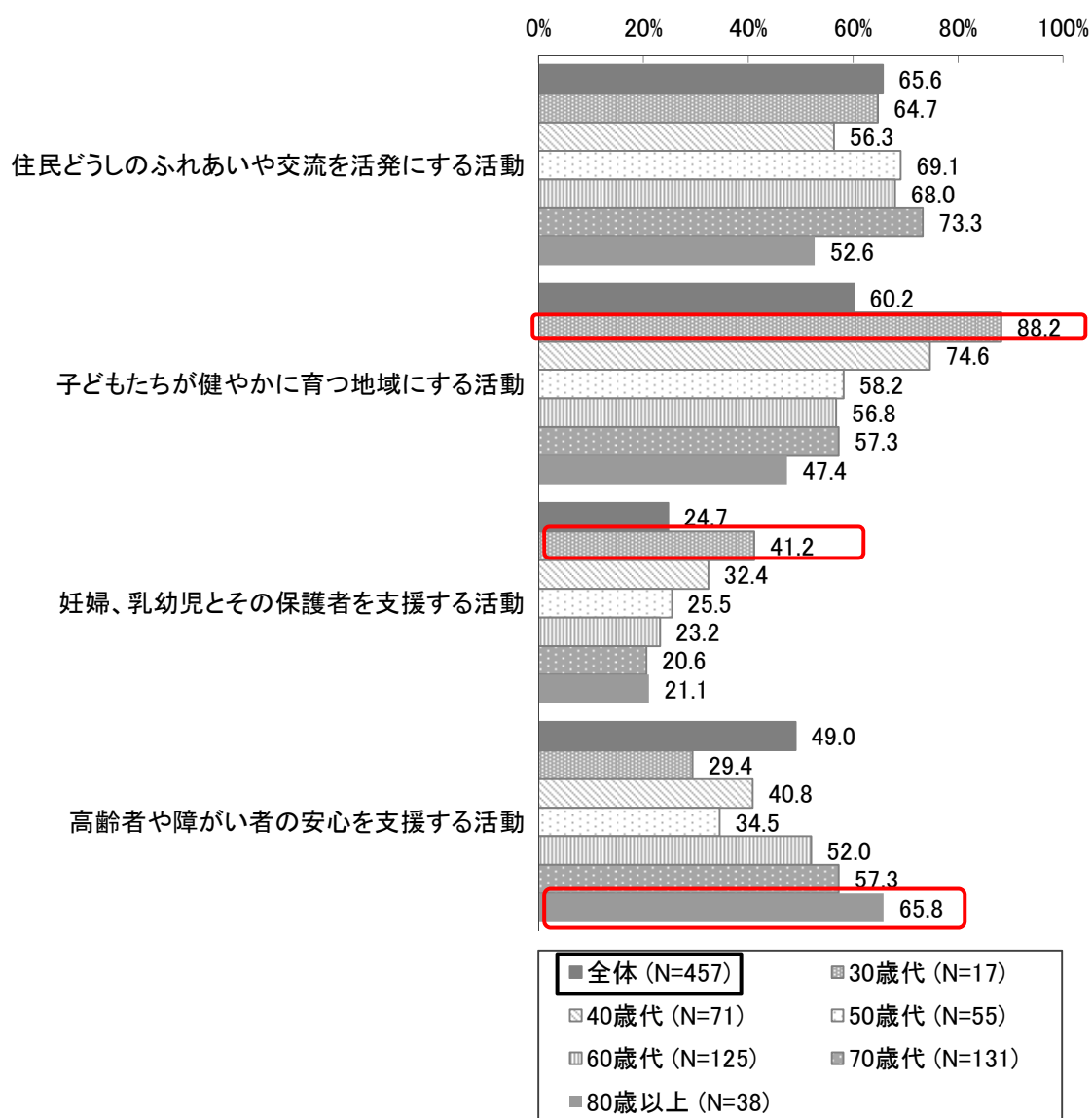
図 51 今よりもっと力を入れて取り組むことが必要な活動（複数回答）（役立ち度別）



年代によりニーズが異なる可能性がある活動の選択肢について、年代別での回答傾向を分析した。

年代別にみると、「住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動」については各年代とも5割強～7割強となっているが、「子どもたちが健やかに育つ地域にする活動」、「妊婦、乳幼児とその保護者を支援する活動」、「高齢者や障がい者の安心を支援する活動」については年代により回答傾向が異なる。担い手どうしにおいて、「今よりもっと力を入れて取り組むことが必要な活動」についての認識を共有することが必要と考えられる。

図 52 今よりもっと力を入れて取り組むことが必要な活動（複数回答）（年代別）



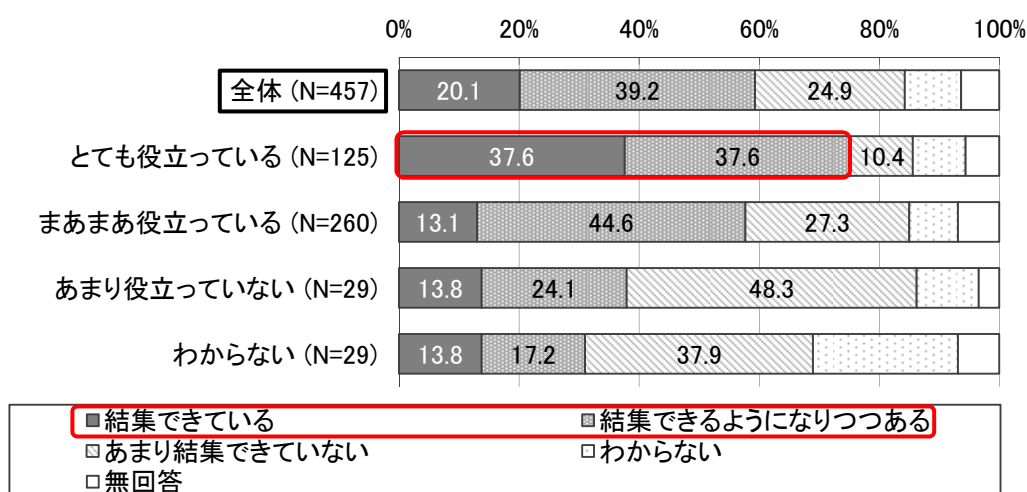
②「地域の力」の結集状況

問 20 現在、あなたの地域では、多様な団体が参加・協力・連携し、「地域の力を結集」できていると思いますか。次の中から 1 つだけ選んで○印を付けてください。

「地域の力」の結集状況は、「結集できるようになりつつある」が 39.2%と最も多く、次いで「あまり結集できていない」(24.9%)、「結集できている」(20.1%) となっている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」では、「結集できている」と「結集できるようになりつつある」の合計が 75.2%となっており、他に比べて結集できているという認識の割合が高くなっている。

図 53 「地域の力」の結集状況（役立ち度別）



③地域の力を結集した事例

問 21 現在、どのような参加・協力・連携をしていますか。地域の力を結集した事例をお聞かせください。

次のような回答があった。

●住民交流のイベントやスポーツ

- ・ふれあい祭り、地域フェスタ
- ・桜祭り
- ・夏祭り、盆踊り、納涼祭、夜店祭
- ・もちつき、とんど祭り
- ・朝市、マルシェ（地域の各団体でお店を出店）
- ・バザー
- ・市民スポーツ祭、グラウンドゴルフ、ニュースポーツ

●福祉・健康

- ・敬老祝寿会
- ・ふれあい喫茶、食事会、給食ボランティア
- ・訪問（誕生月に花を贈る、敬老の日に赤飯を配布、クリスマスプレゼント等）
- ・健康まつり

●青少年育成

- ・お茶会・物作り教室（幼稚園、小学校の協力を得て、子どもたち主体で開催）
- ・校庭キャンプ
- ・子ども食堂
- ・世代間交流事業

●防犯・防災・美化

- ・子ども見守り隊、声かけ見守り運動
- ・青色防犯パトロール、夜警パトロール
- ・防災訓練（小学校の日曜参観日に防災訓練、地元の企業と合同での防災訓練等）

●美化

- ・一斉清掃、公園清掃、学校清掃

●会議・集会

- ・近隣の方々と2か月に一度集まり、話し合いの場を設けている。
- ・月初めの各団体長の会議で、次の行事の進行について協議している。

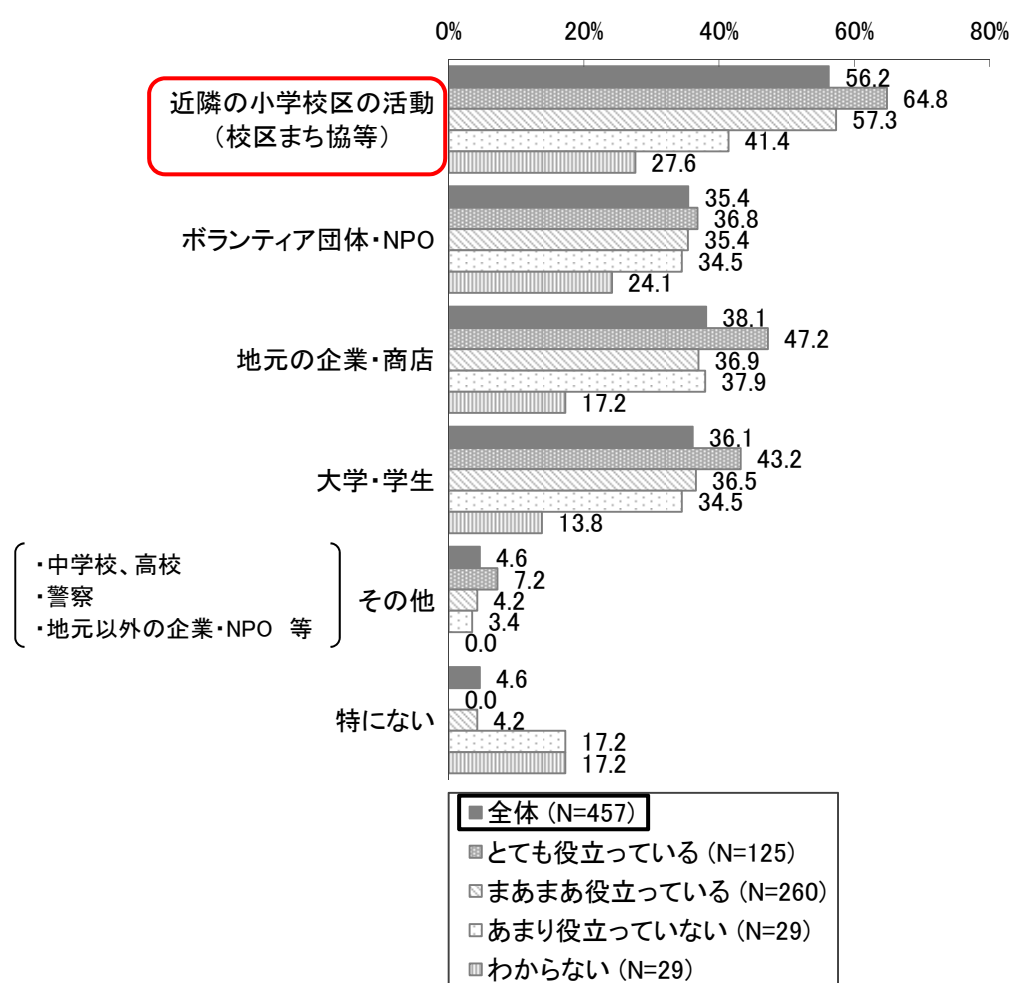
④連携・協力が広がればよいと思われる団体

問 22 あなたは、まち協の活動をより良くしていくために、今後、どういった団体との連携・協力が広がればよいと思いますか。3 つまで選んで○印を付けてください。

連携・協力が広がればよいと思う団体は、「近隣の小学校区の活動（校区まち協等）」が 56.2% と最も多く、次いで「地元の企業・商店」（38.1%）、「大学・学生」（36.1%）、「ボランティア団体・NPO」（35.4%）となっている。

役立ち度別にみると、いずれも「近隣の小学校区の活動（校区まち協等）」が最も多くなっている。

図 54 連携・協力が広がればよいと思われる団体（複数回答）（役立ち度別）

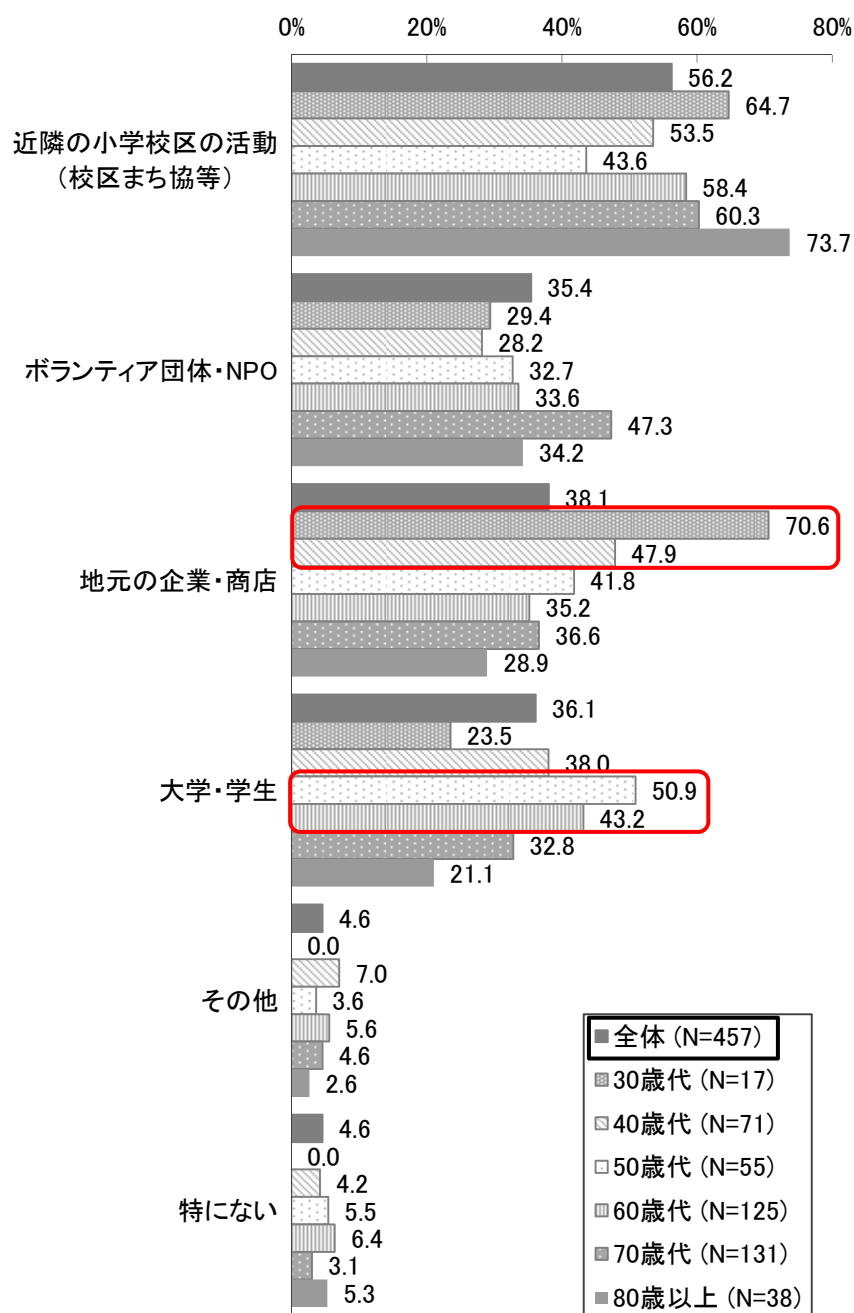


年代別にみると、「近隣の小学校区の活動（校区まち協等）」については、多くの年代において5割以上となっているが、「30歳代」と「40歳代」では「地元の企業・商店」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

また、「50歳代」と「60歳代」では「大学・学生」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

これらの回答傾向から、担い手どうしにおいて、「連携・協力が広がればよいと思われる団体」についての認識を共有することが必要と考えられる。

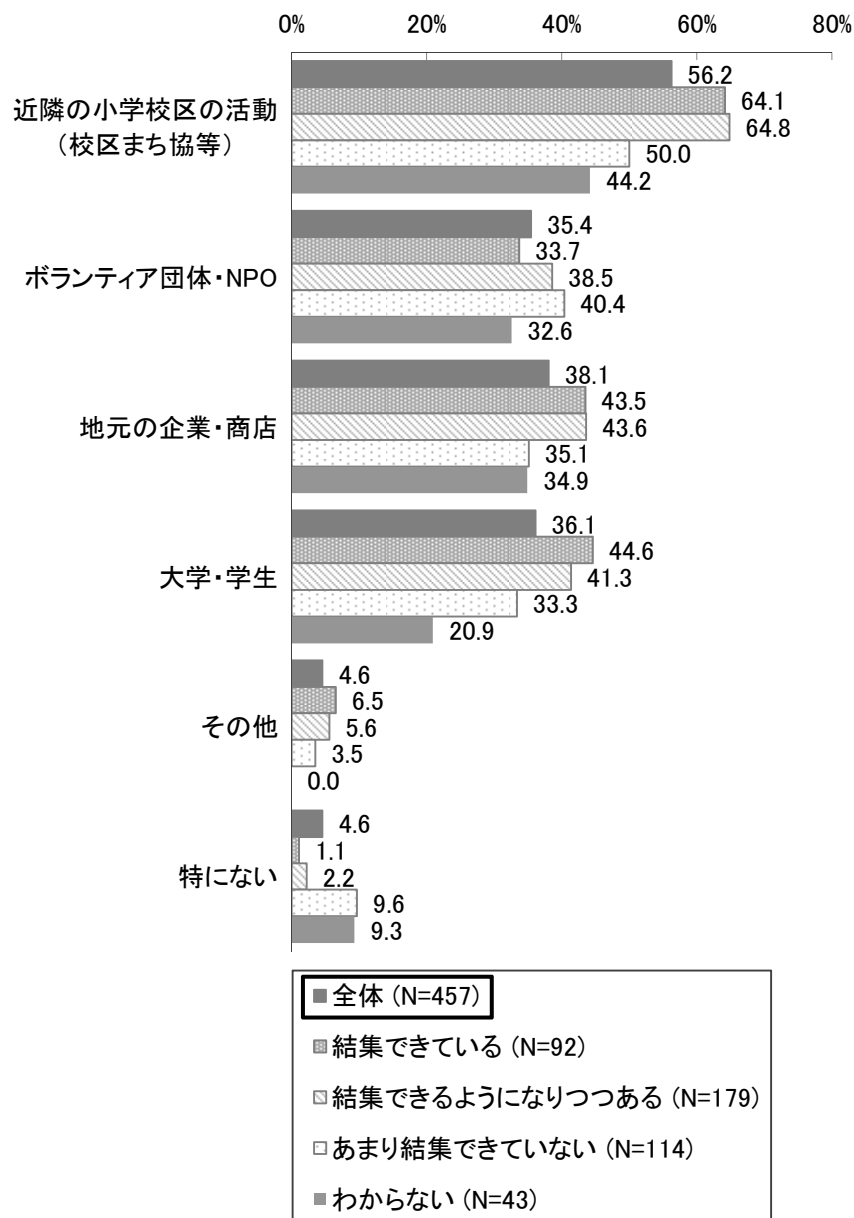
図 55 連携・協力が広がればよいと思われる団体（複数回答）（年代別）



「地域の力」の結集状況別にみると、「結集できている」、「結集できるようになりつつある」と回答した担い手は、様々な団体と連携・協力を広げていきたいと考えている。

一方、「あまり結集できていない」と回答した担い手は、連携・協力が広がればよいと考える団体の回答割合が「結集できている」、「結集できるようになりつつある」よりも多くの項目で低くなっている。「あまり結集できていない」と回答した担い手は、結集することによる「地域の力」を実感する機会・経験が少なかったことが想定され、そのことから、他団体との具体的な連携・協力のイメージが持ちにくく、回答割合が低い傾向になったものと推測される。

図 56 連携・協力が広がればよいと思われる団体（複数回答）（「地域の力」の結集状況別）



⑤連携・協力のアイデア

問 23 今後どのような連携・協力することが考えられますか。アイデアをお聞かせください。

次のような回答があった。

●子ども・子育て関連

- ・音楽や子どもたちとの遊び（大学生、ボランティアと連携）
- ・子育てイベント（学生、小学生、子育てママたちと連携）
- ・「子どもの場づくり隊」の継続（子どもたちと連携）

●学校教育関連

- ・授業とリンクした活動（高校と連携）

●福祉関連

- ・高齢者や独居生活者の見守り、援助（地域と民生委員が連携）
- ・高齢者の援助（中学生とボランティア団体が連携）

●防犯・防災関連

- ・登下校や放課後の見守り（地域のパトロールと犬を散歩している人、警察等が連携）
- ・防災を考える組織づくり（学校、企業、病院が連携）
- ・避難訓練（近隣学生と高齢者が連携）
- ・モデル地区での防災についての研究（大学の研究室と連携）

●その他の活動

- ・地域伝統文化の継承（保存会と連携）
- ・移送サービス（車両の提供者とボランティアドライバーの連携）
- ・職業体験（将来の夢を考える機会）（大学生、地元の企業と連携）
- ・河川の汚染防止（企業と自治会が連携）
- ・地元商店等の活性化（地域団体と商店・企業が連携）
- ・在住外国人との交流の場

●その他

- ・重い物を運んだり、力のいる仕事を学生に手助けしてほしい。
- ・担い手不足解消のため、学生に地域活動を必修科目とする。

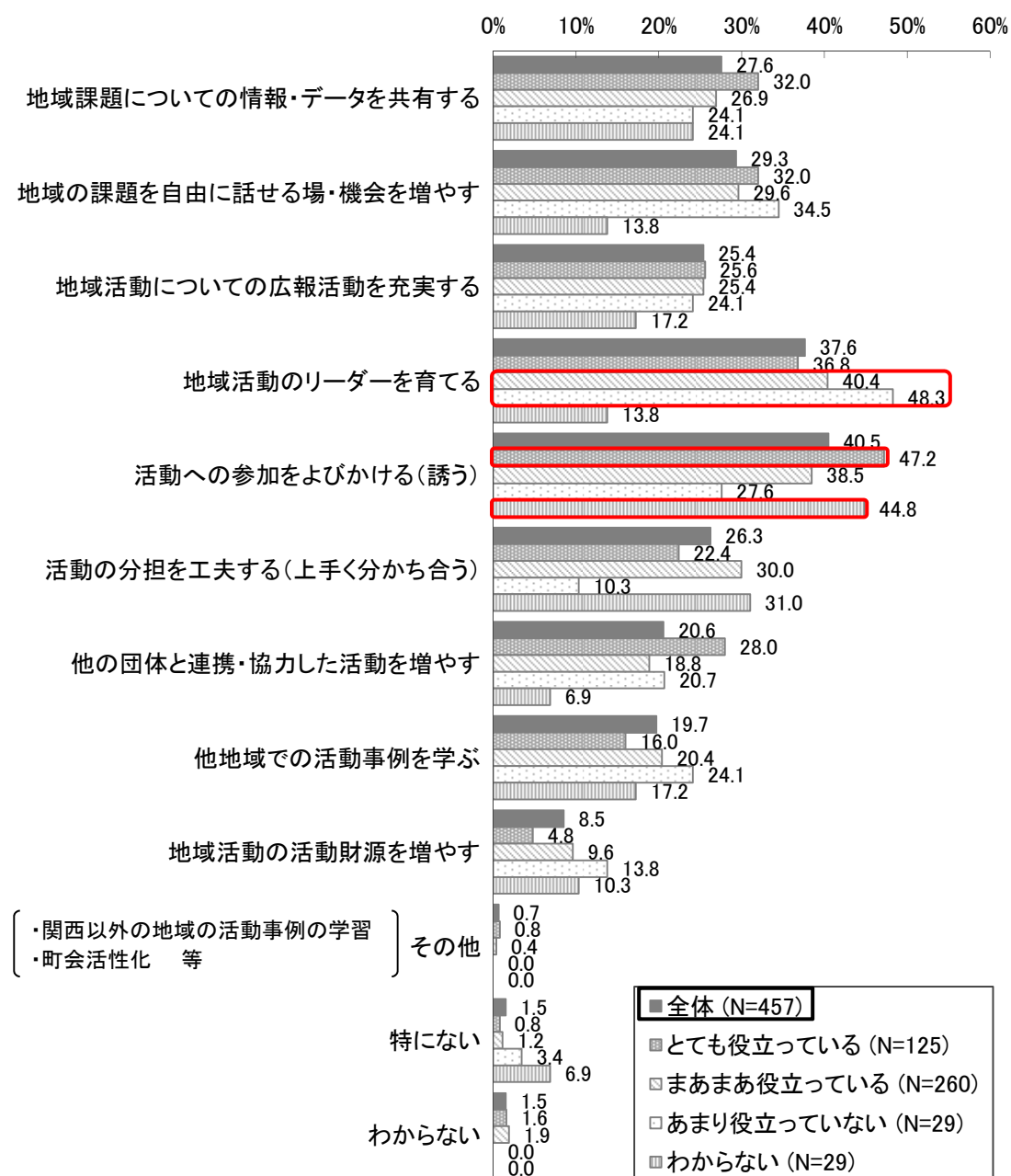
⑥まち協の活動を活発にしていくために必要なこと

問 24 まち協の活動を活発にしていくために、必要と思われることをお聞かせください。次の中から3つまで選んで○印を付けてください。

まち協の活動を活発にしていくために必要なことは、「活動への参加をよびかける（誘う）」が40.5%と最も多く、次いで「地域活動のリーダーを育てる」（37.6%）となっている。

役立ち度別にみると、「とても役立っている」「わからない」では「活動への参加をよびかける（誘う）」、「まあまあ役立っている」「あまり役立っていない」では「地域活動のリーダーを育てる」が最も高くなっている。

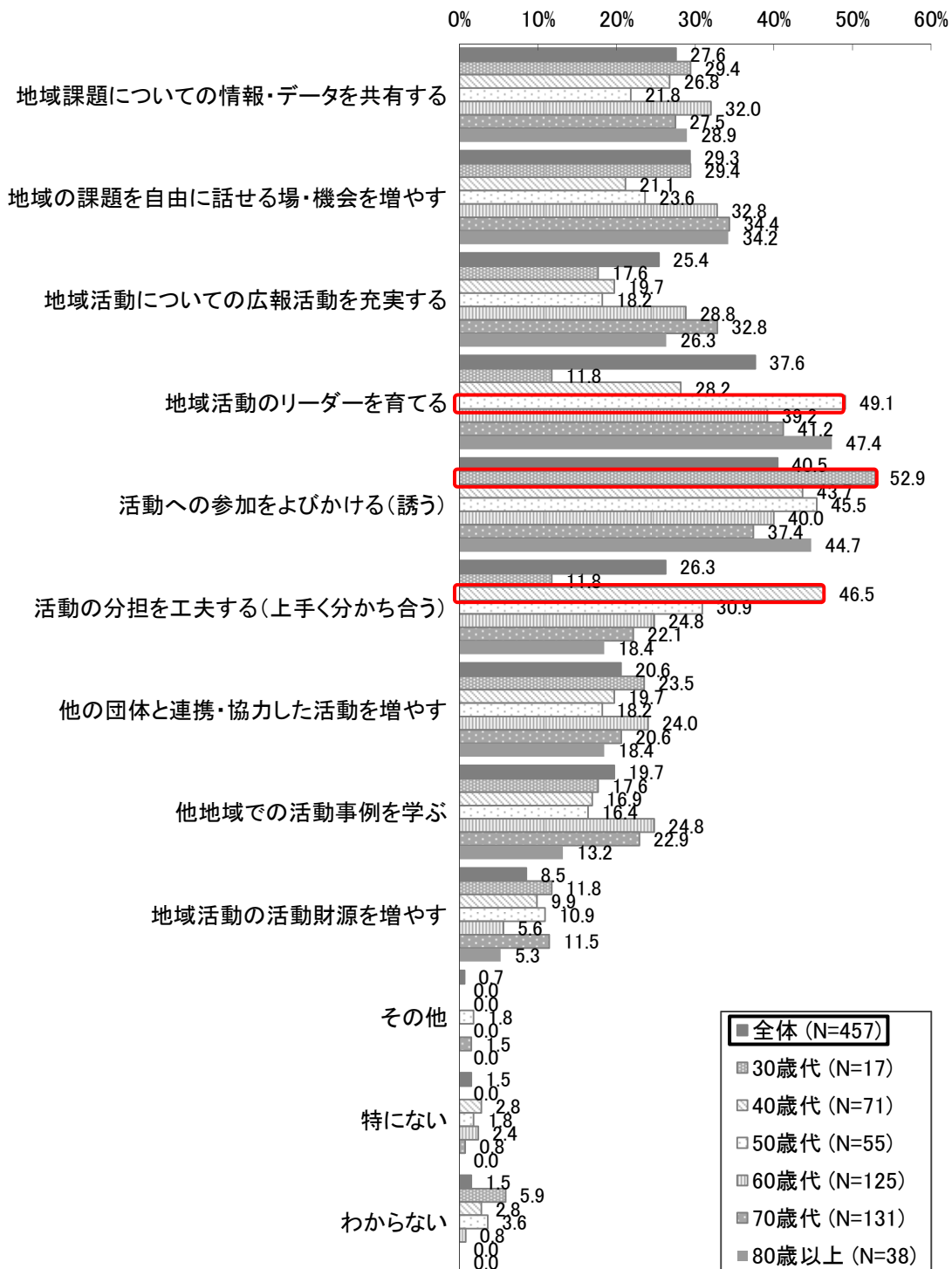
図 57 まち協の活動を活発にしていくために必要なこと（複数回答）（役立ち度別）



年代別にみると、「30 歳代」では「活動への参加をよびかける（誘う）」が、「40 歳代」では「活動の分担を工夫する（上手く分かち合う）」が、「50 歳代」では「地域活動のリーダーを育てる」が他の年代に比べて高くなっている。

これらの回答傾向から、担い手どうしにおいて、「まち協の活動を活発にしていくために必要なこと」についての認識を共有することが必要と考えられる。

図 58 まち協の活動を活発にしていくために必要なこと（複数回答）（年代別）



身近な地域のまちづくりについてのアンケート調査

- 「校区まちづくり協議会」（以下、「まち協」という）は、住民が「わがまち意識」を共有し、地域の未来を考え、みんなの力で地域の特色をいかして、身近な地域の課題を解決するための組織として、地域に関わる各種団体が参画してできた組織です。
- 今年度、「八尾市校区まちづくり協議会あり方検討会議」を設置し、まち協の組織運営や活動のあり方、まち協と本市との協働のあり方、まち協に対する支援のあり方等を検討しています。
- つきましては、まち協の運営に携わっておられる皆様に、ご意見・ご提案をお聞かせいただくため、アンケート調査を実施することとなりました。**特に、日頃、運営で工夫されている事例**をお聞かせいただきたく思います。お手数をおかけしますが、ご協力よろしくお願いします。

あなたご自身の活動状況についてお聞かせください。

問 1 あなたは、地域活動（まち協以外の活動も含めて）に、担い手（スタッフ、班長、役員等）として初めて参加してから、どれぐらいの期間がたっていますか。次の中から 1 つだけ選んで○印を付けてください。

- | | | |
|----------------|-----------------|------------------|
| 1. 1 年未満 | 3. 3 年から 5 年未満 | 5. 10 年から 20 年未満 |
| 2. 1 年から 3 年未満 | 4. 5 年から 10 年未満 | 6. 20 年以上 |

問 2 あなたが、地域活動の担い手（スタッフ、班長、役員等）として参加したきっかけをお聞かせください。次の中から 1 つだけ選んで○印を付けてください。

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| 1. 自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから | 4. 知り合いに誘われたから |
| 2. 家族が地域活動に参加していたから | 5. 役員の順番が回ってきたため |
| 3. 以前、住んでいた地域で、地域の活動に関わっていたから | 6. その他（ ） |

問 3 あなたが、地域活動の担い手として参加していてよかったと思うことをお聞かせください。次の中から 3 つまで選んで○印を付けてください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 近隣の知り合いが増える | 5. 行政に対して意見・提案を伝えやすい |
| 2. 地域の様々な情報が入手できる | 6. 地域の人に喜んでもらえることがあった |
| 3. 困ったことや問題が起こった時に相談しやすい | 7. その他（ ） |
| 4. 地域の活動について意見・提案できる | 8. 特になし |

問 4 あなたは、地域活動の担い手として参加した後、増えたと感じるご自身の行動をお聞かせください。次の中からあてはまるものをすべて選んで○印を付けてください。

- | |
|--|
| 1. 地域住民とあいさつや会話をすること |
| 2. 自分が担い手して関わっていない地域の行事・イベントに参加すること |
| 3. まちを歩いていて、課題（防犯面、防災面等）や変化（空き家等）に気づくこと |
| 4. 地域の課題や将来像について地域住民間で話しあうこと |
| 5. 自らが中心となり、新たな地域活動を始めたこと |
| 6. テレビや新聞、インターネット、書籍等を見ていて、他地域のまちづくりの話題や取組に関心をもつこと |
| 7. その他（ ） |
| 8. 特にあてはまることはない |

問 13 まち協の運営にあたって、課題として感じておられることをお聞かせください。次の中からあてはまるものをすべて選んで○印を付けてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. 活動の担い手（スタッフ）が少ない | 8. 活動の資金が不足している |
| 2. 役員のなり手がいない | 9. 団体名で契約ができない |
| 3. 活動の企画・アイデアを考えるのが難しい | 10. 団体名で財産を保有できない（不動産、自動車等） |
| 4. 活動の周知・PRが難しい | 11. その他（ ） |
| 5. 事務処理等の負担が重い | 12. 特にない |
| 6. 地域の団体間の調整が難しい | 13. わからない |
| 7. 個人情報の取り扱いが難しい | |

問 14 まち協の運営にあたって課題を解決するために必要と考えていることをお聞かせください。

まち協の住民への周知や、活動への参加状況について、あなたのお考えやご意見・ご提案をお聞かせください。

問 15 まち協の活動に対する地域住民の参加状況について、課題として感じておられることをお聞かせください。次の中から2つまで選んで○印を付けてください。

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 活動への参加者が少ない | 4. 特に参加してほしい年代層の参加が少ない |
| 2. 参加する人の顔ぶれがいつも同じである | 5. その他（ ） |
| 3. 共同住宅（マンション等）からの参加が少ない | 6. 特にない |

問 16 あなたは、まち協の活動の情報は、地域の住民にどの程度届いていると思いますか。次の中から1つだけ選んで○印を付けてください。

- | | | | |
|------------|--------------|--------------|----------|
| 1. よく届いている | 2. まあまあ届いている | 3. あまり届いていない | 4. わからない |
|------------|--------------|--------------|----------|

問 17 まち協の情報を周知するために、まち協で工夫されていることがあればお聞かせください。

問 18 あなたは、まち協の情報について、地域のより多くの人に周知するために、どのような手段をもっと活用したらよいと思いますか。次の中から3つまで選んで○印を付けてください。

- | | | | |
|--------|--------------|---------------|-----------|
| 1. 回覧板 | 3. マンションの掲示板 | 5. インターネット | 7. その他（ ） |
| 2. 広報板 | 4. フリーペーパー | 6. SNS（LINE等） | 8. わからない |

まち協の活動全般について、あなたのお考えやご意見・ご提案をお聞かせください。

問 19 あなたは、お住まいの地域での暮らしをより良くしていくために、今後どのような活動に、今よりもっと力を入れて取り組むことが必要と思われますか。次の中からあてはまるものをすべてに○印を付けてください。

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動 | 9. 音楽等、気軽に文化に触れられる活動 |
| 2. 子どもたちが健やかに育つ地域にする活動 | 10. ウォーキングや体操など健康づくりの活動 |
| 3. 妊婦、乳幼児とその保護者を支援する活動 | 11. まちの美化活動 |
| 4. 高齢者や障がい者の安心を支援する活動 | 12. 歴史や伝統、文化を継承する活動 |
| 5. 災害に備えた自主防災活動 | 13. 助け合い活動（電球交換、買い物支援等） |
| 6. 防犯活動（青パト、詐欺被害防止等） | 14. その他（ ） |
| 7. 交通安全活動（見守り等） | 15. 特にない |
| 8. 自然を大切にしたり、花や緑を増やす活動 | 16. わからない |

1. 結集できている 2. 結集できるようになりつつある 3. あまり結集できていない 4. わからない

1. 近隣の小学校区の活動（校区まち協等）	4. 大学・学生
2. ボランティア団体・N P O	5. その他（ ）
3. 地元の企業・商店	6. 特にない

例) ○○と△△が連携し、□□する。

1. 地域課題についての情報・データを共有する	7. 他の団体と連携・協力した活動を増やす
2. 地域の課題を自由に話せる場・機会を増やす	8. 他地域での活動事例を学ぶ
3. 地域活動についての広報活動を充実する	9. 地域活動の活動財源を増やす
4. 地域活動のリーダーを育てる	10. その他（ ）
5. 活動への参加をよびかける（誘う）	11. 特にない
6. 活動の分担を工夫する（上手く分かち合う）	12. わからない

あなたご自身について、お聞かせください。それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで○印を付けて下さい。

①あなたの性別	1. 男性	2. 女性		
②あなたの年齢	1. 20 歳代	3. 40 歳代	5. 60 歳代	7. 80 歳以上
	2. 30 歳代	4. 50 歳代	6. 70 歳代	
③住宅形態	1. 戸建て（持家）	3. マンション等（持家）	5. 寮・社宅	
	2. 戸建て（賃貸）	4. マンション等（賃貸）	6. その他（ ）	
④地域での 居住年数	1. 2 年未満	3. 5 年～10 年未満	5. 20 年～30 年未満	
	2. 2 年～5 年未満	4. 10 年～20 年未満	6. 30 年以上	
⑤就業状況	1. 働いている（フルタイム）	2. 働いている（パート等）	3. 働いていない	
⑥ネット検索	1. よく利用する	2. あまり利用しない	3. 利用しない	
⑦SNS 利用	1. よく利用する	2. あまり利用しない	3. 利用しない	
⑧お住まいの 小学校区	（ ）小学校区			

56

■ 身近な地域のまちづくりについてのアンケート調査 報告書

平成 31 年 3 月発行

発行者 八尾市 人権文化ふれあい部 コミュニティ政策推進課

〒581-0003 大阪府八尾市本町一丁目 1 番 1 号

TEL 072-924-3818 FAX 072-992-1021

電子メール com-suishin@city.yao.osaka.jp

刊行物番号 H30-244